

オオツルコウジ *Ardisia walkeri* Yuen P.Yang

【評価理由】

愛知県に生育するという報告があるが、標本を確認できない。記述から推定すれば、絶滅危惧 I A類または I B類になると思われる。

【形態】

常緑性小低木で高さ 10~20cm になる。匍匐茎は長く伸び、葉はつかない。茎の上部は葉柄や花柄とともに淡褐色の開出長軟毛と粒状毛がある。葉は 3~5 輪生し、楕円形で長さ 5~10cm、やや革質で光沢があり、鋸歯縁で裏面の脈に長軟毛がある。花はやや紅を帯びた白色で、6~8 月に開花し、葉腋に散形状に数個つく。実は液果、球形で径 6~8mm、12~1 月に赤色に熟す (小林 2012)。ただし、この記述が愛知県産の材料についてのものか、もっと広域の材料についてのものかはよくわからない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部で記録されている (小林 2010, 2012)。2006 年 7 月に撮影されたという写真も掲載されている。

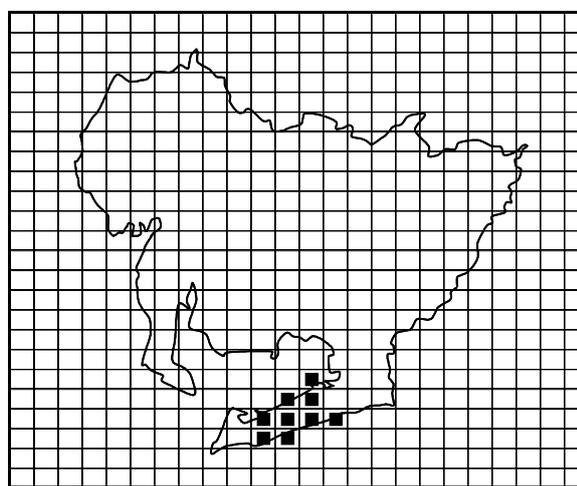
【国内の分布】

本州 (関東地方南部以西)、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

「スダジイが優占し、モチノキやクロガネモチ、マダケが混生する北斜面の暗い林床」と記述されている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

量的な記述はない。

【保全上の留意点】

現地状況を見ていないので、よくわからない。一般的に言えば、生育地の林を保全する必要がある。

【特記事項】

ヤブコウジとツルコウジの中間的な形状をした植物である。ツルコウジ *A. pusilla* A.DC. は、愛知県では 9 鳳来南部 (小林 46737, 1993-8-20)、12 新城 (芹沢 64534, 1992-11-8)、13 豊川 (井上美保子 973, 1994-2-20)、15 豊橋北部 (芹沢 43546, 1986-4-20)、28 額田 (小林 50205, 1994-4-2)、29 岡崎北部 (小林 59052, 1996-3-2)、36 西尾南部 (芹沢 83518, 2008-10-8) に生育している。

【引用文献】

小林元男. 2010. 第 7 章第 2 節 愛知県の絶滅危惧植物. 愛知県史編さん委員会(編), 愛知県史別編自然 574-596. 愛知県.
小林元男. 2012. 愛知県樹木誌. 620 頁. 自刊.

【関連文献】

保木本 I p.110, 平木本 II p.159, 平新版 4 p.189.

キンレイカ *Patrinia triloba* (Miq.) Miq. var. *palmata* (Maxim.) H.Hara

【評価理由】

愛知県に生育するという報告があるが、標本を確認できない。記述から推定すれば、絶滅危惧 I A類になると思われる。

【形態】

葉は対生し、掌状に3~5中裂し、裂片には欠刻または鋸歯がある。花は黄色で7月に開花し、花弁に明確な距がある (小林 2010)。植物体の大きさ、葉の大きさなどについての具体的な記述はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄で記録されている (小林 2010)。2008年7月に撮影したという写真も掲載されている。

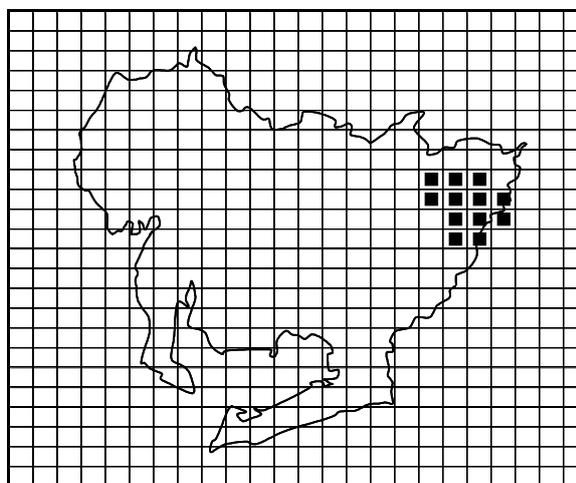
【国内の分布】

本州 (関東地方以西の太平洋側)、九州。基準変種のコキンレイカ (ハクサンオミナエシ) は花がやや小さく、距も小さいもので、本州日本海側の山地に分布する。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は岩崖地に生育するが、愛知県の自生地については記述がない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

「1カ所少数株を確認した。この自生地も、ニホンカモシカによる食害が発生しており、開花個体はほとんどなく存続が危惧される」と記述されている。

【保全上の留意点】

現地状況を見ていないので、よくわからない。

【引用文献】

小林元男. 2010. 第7章第2節 愛知県の絶滅危惧植物. 愛知県史編さん委員会(編), 愛知県史別編自然 574-596. 愛知県.

【関連文献】

保草本 I p.103, 平草本 III p.147, 平新版 5 p.423.

ニッケイ *Cinnamomun sieboldii* Meisn.

【除外理由】

環境省レッドリストに掲載されているが、愛知県のもは全て逸出で、評価の対象にならない。

【形態】

常緑性の高木。高さ 15m、直径 60～100cm に達する。葉は対生または 2 枚がややずれてつき、長さ 8～15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 8～15cm、幅 2.5～5cm、先端は長くとがり、基部も狭いくさび形、全縁、葉質は革質で、裏面は粉白色、基部よりやや上で分岐した 3 脈が目立つ。花期は 5～6 月、花序は葉腋から出て葉より短く、散形でよく分枝する。花は淡黄緑色、花被は 6 裂し、裂片は細長く、長さ約 5mm である。果実は楕円形で長さ約 10mm、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部 (小林 36169, 1992-3-24)、12 新城 (芹沢 60583, 1991-9-30)、13 豊川 (芹沢 93978, 2018-5-12)、15 豊橋北部 (芹沢 73442, 1996-11-16)。西：26 豊田南西部 (畑佐武司 6320, 2003-9-29)、30 岡崎南部 (芹沢 78423, 2002-11-3)、35 西尾北部 (堀田喜久 4138, 1995-6-25)、36 西尾南部 (壁谷重美子 524, 1994-6-15)。尾：44b 南知多 (芹沢 62685, 1992-8-25)、48 春日井 (山田果与乃 582, 2000-6-19)、51 名古屋南東部 (芹沢 94976, 2018-10-20)、52 名古屋南西部 (芹沢 95494, 2019-7-20)、57b 愛西 (芹沢 74712, 1998-7-4) など。標本は採取されていないが、他にもかなりの区画で確認されている。

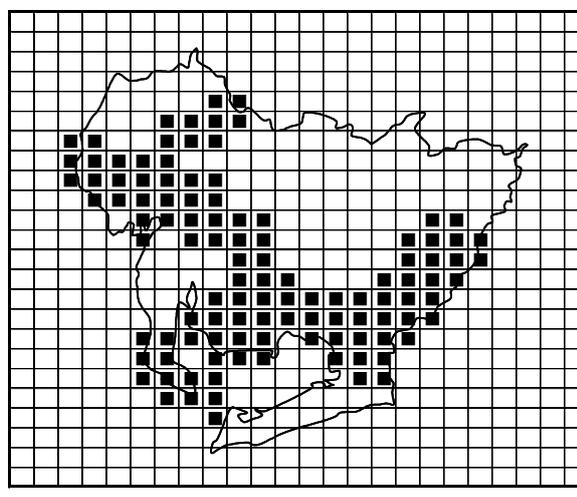
【国内の分布】

琉球 (沖縄島北部、久米島、徳之島) に生育する。栽培起源のものが本州の暖地、四国、九州に逸出している。

【世界の分布】

日本および中国大陸に分布する。

関連地区図



【生育地の環境／生態的特性】

自生地では、山地の照葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では、人里近くの林内に幼木が点在しているが、個体数は少ない。開花結実する株も、豊川で見ただけである。

【保全上の留意点】

本種については、本来の自生ではなく、特に配慮する必要はない。

【特記事項】

根の皮から肉桂をとるため栽培される。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.201, 平木本Ⅰ p.115, 平新版Ⅰ p.80.

アギナシ *Sagittaria aginashi* (Makino) Makino

【除外理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 10。愛知県では比較的生育地が多く、休耕田などにも生育しており、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

多年生草本。茎は短く、走出枝はない。葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は矢じり形、頂裂片は広披針形～線形、長さ 7.5～17.5cm、鈍端、側裂片は頂裂片より少し短く、先端は次第に細まり鈍端となり、辺縁は全縁、両面とも無毛である。花期は 7～10 月、花茎は高さ 30～80cm で、その上部に枝を 3 個ずつ輪生する総状花序をつくり、花序の上部に雄花、下部に雌花をつける。花弁は 3 個、白色、卵円形で長さ 10～13mm、果実はそう果で倒卵形、広い翼がある。葉腋に多くの小球茎をつけ、栄養的に繁殖する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 設楽東部 (小林 66933, 1999-8-21)、11 作手 (芹沢 56027, 1990-7-26)、13 豊川 (小林 38841, 1992-8-21)、15 豊橋北部 (芳山朋子 936, 1984-8-13)。西：21 下山 (芹沢 83070, 2008-8-26)、23 藤岡 (芹沢 52780, 1989-8-24)、24 豊田東部 (山崎玲子 1523, 1996-9-23)、25 豊田北西部 (芹沢 78232, 2002-10-8)、27 みよし (臼井里華 707, 1992-8-20)、28 額田 (小林 53447, 1994-9-3)、29 岡崎北部 (中西普佐子 1588, 1993-9-18)、30 岡崎南部 (芹沢 78065, 2002-9-10)、31 幸田 (金子律子 1263, 1995-9-22)、36 西尾南部 (壁谷重美子 890, 1994-8-31)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 76128, 1995-8-20)、38a 長久手 (半田多美子 3494, 2003-6-22)、38b 日進 (村松正雄 24404, 2008-8-11)、42b 半田 (岡本久美子 667, 2000-8-23)、43 常滑 (相羽福松 4070, 1994-9-19)、48 春日井 (日比野修 3015, 1995-7-29)、50 名古屋北部 (芹沢 52674, 1989-8-23)、51 名古屋南東部 (中村肇 698, 2014-9-13)。

12 新城にもあるという (小林 2000)。16 豊橋南部 (杉山町七股池, 恒川敏雄 s.n., 1962-8-11, TMNH)、32a 刈谷 (牛池, 芹沢 38124, 1983-9-17) で採集された標本もある。平野部にはほとんどなく (ただし豊橋市瓜郷で採集された標本=鳥居喜一 9246, 1942-9-6, HNSM がある)、渥美半島でも現在のところ確認されていない。

【国内の分布】 北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】 日本および朝鮮半島。

【生育地の環境／生態的特性】

林の中の湿地、ため池の周辺などに生育することが多いが、谷戸などの休耕田に群生することもある。オモダカよりやや安定した場所に多く、耕作中の水田の雑草とはならない。

【現在の生育状況／減少の要因】

オモダカに比べればずっと少ないが、それでもよく探せば、あちこちに生育している。休耕田に群生しているものは生育状態が不安定である。都市近郊では水田の宅地化などにより減少している。

【保全上の留意点】

個体レベルの保全に限れば、現時点ではそれほど神経質になる必要はない。しかし、特に休耕田以外の場所に生育しているものについては、それなりに保全上の配慮を要する。本種が生育し続けることができるような落ち着いた谷戸田景観の保全は、重要な課題である。

【特記事項】

オモダカに比べ、地下に走出枝がなく、かわりに小球茎をつけ、葉の側裂片は頂裂片より短く、その先端が鈍端であることで区別できる。葉の幅はかなり広いものも狭いものもある。和名は「顎無し」で、初期に出る葉が側裂片を持たないことによるという。

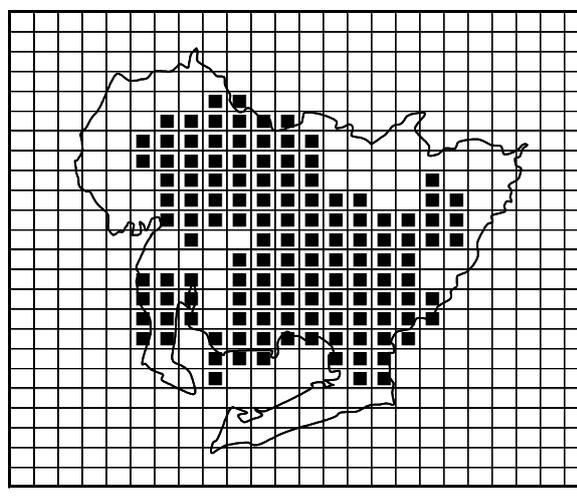
【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.157. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本Ⅲp.400, 平草本 I p.1, 平新版 I p.117.

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

ミズオオバコ *Ottelia alismoides* (L.) Pers.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 8。環境省のレッドリストに掲載されているが、愛知県では生育地が多く、過栄養化した水路などにも生育しており、絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

沈水性の 1 年生草本。茎は短く葉を束生する。葉の大きさは変異が著しく、小さいものは葉柄の長さ 1.5~2cm、葉身の長さ 3~5cm で花をつけるが、大きいものは葉柄の長さ 40cm、葉身の長さ 30cm に達する。葉身は披針形~円心形、辺縁は全縁のことが多いが顕著な小歯が出ることもある。花期は 8~10 月、長さ 2~70cm の花茎の先に 1 個の花をつける。花弁は 3 個でほぼ円形、白色~淡紅色、子房は下位で表面に翼状の隆起条があり、隆起条はしばしば著しく波状に縮れる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部 (加藤等次 2161, 1992-10-10)、12 新城 (小林 39057, 1992-8-30)、13 豊川 (芹沢 76244, 1999-8-30)、14 蒲郡 (鈴木美恵子 255, 1992-9-19)、15 豊橋北部 (加藤等次 215294, 1996-9-3)、18 田原西部 (芹沢 57938, 1990-10-23)。西：20 足助 (芹沢 78797, 2003-8-27)、21 下山 (芹沢 83607, 2008-10-17)、22 小原 (伊藤泰輔 263, 1993-10-5)、23 藤岡 (芹沢 78047, 2002-9-4)、24 豊田東部 (畑佐武司 2260, 2001-8-8)、25 豊田北西部 (山崎玲子 1274, 1995-9-6)、26 豊田南西部 (落合鈴枝 943, 1996-9-19)、31 幸田 (壁谷祥和 164, 1993-9-16)、32a 刈谷 (芹沢 47303, 1987-10-8)、33 安城 (堀田喜久 6518, 1998-10-3)、35 西尾北部 (中根幸司 61, 2006-10-8)、36 西尾南部 (芹沢 71127, 1994-9-24)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 74814, 1998-8-7)、38a 長久手 (村松正雄 27874, 2014-8-29)、42c 武豊 (相羽福松 4017, 1994-8-23)、43 常滑 (中井三従美 4, 1989-9-30)、44b 南知多 (芹沢 64392, 1992-10-23)、45 犬山 (芹沢 78120, 2002-9-15)、46b 大口 (福岡義洋 4346, 1998-10-31)、47 小牧 (福岡義洋 4256, 1998-9-5)、48 春日井 (山田果与乃 1803, 2011-10-1)、49c 北名古屋 (鈴木幸子 179, 1992-8-16)、50 名古屋北部 (福岡義洋 4690, 1999-10-11)、52 名古屋南西部 (高木順夫 248, 1992-7-11)、53 一宮東部 (福岡義洋 5357, 2001-9-9)、54 一宮西部 (渡辺幸子 1872, 1994-9-27)、55 稲沢 (水野峰子 259, 1993-10-2)、56b 大治 (芹沢 70155, 1994-7-18)、58a 蟹江 (永田晴美 699, 1996-10-10)。46c 江南 (中西文治 401, 1980-8-24)、56a あま (美和町, 木全 s.n., 1932-8-20) で採集された標本もある。丁寧に調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。

【国内の分布】

北海道 (南部)、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

アジアの温帯~熱帯、オーストラリア。

【生育地の環境/生態的特性】

山間部の水のきれいなため池や谷戸田に生育する一方で、生活排水が流入する都市近郊の過栄養化した水路にも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	○

【現在の生育状況/減少の要因】

非汚染水域に生育しているものに限定すれば集団数も個体数もそれほど多くなく、またため池の改修や養魚池化、谷戸田の放棄などにより減少傾向にあり、準絶滅危惧相当である。しかしその一方で、平野部の水路を埋め尽くすほどに生育していることもあるため、リスト外と判定される。ただし、平野部の水路のどこにでもあるというわけではない。

【保全上の留意点】

非汚染水域に生育しているものについては、保全上何らかの配慮が望ましい。このようなものと過栄養水域に生育しているものは、形態的に明確に区別することはできないが遺伝的に多少なりとも分化している可能性があり、今後詳細な検討が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.395, 平草本Ⅰ p.3, 平新版Ⅰ p.123, 環境省 p.541.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.28. 文一総合出版, 東京.

ツツイトモ *Potamogeton panormitanus* Biv.

【除外理由】

環境省レッドリストに掲載されているが、愛知県のもの全ては移入の可能性が高く、評価の対象にならない。

【形態】

沈水性の多年生草本。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、すべて沈水葉、無柄、葉身は狭線形、長さ3~5cm、幅0.6~1mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、1脈があり、基部は葉鞘とならない。托葉は両側で合着して筒状となる。花期は6~7月、花茎は長さ1.3~2cm、花序は穂状で、長さ4~7mm、花は2段に分かれてつくことが多いが、連続的につくこともある。殖芽は秋に枝の先端につき、長さ1.3~2cm、イトモのものに比べてずっと細い。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (中西普佐子 3285, 2009-6-21)、14 蒲郡 (小林 79268, 2003-6-8)、16 豊橋南部 (芹沢 78726, 2003-8-6)、17 田原東部 (芹沢 80446, 2005-10-20)、18 田原西部 (芹沢 79234, 2004-6-28)。西：36 西尾南部 (芹沢 81061, 2006-9-21)。尾：37a 瀬戸 (村松正雄 27771, 2014-8-11)。

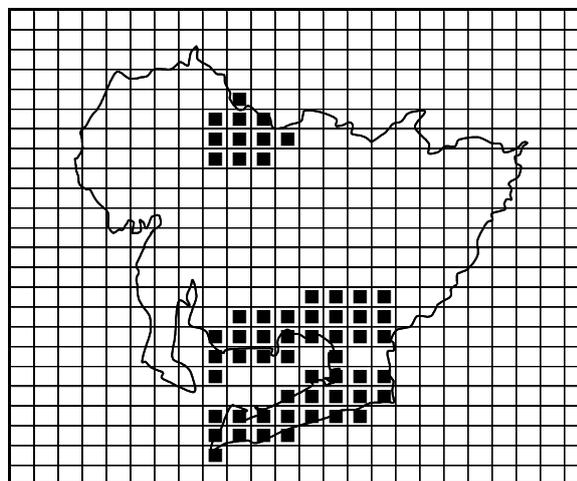
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

全世界に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸に近い池沼に生育する。愛知県での生育地はほとんどが養魚場跡地か海岸堤防内側の水路である。開花期は初夏で、養魚場跡地では夏に一度消失し、秋に再度出現して殖芽をつけることが多い。夏は水温が高すぎて生育できないのであろう。最近では海岸から離れた場所でも確認されている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況／増加の要因】

三河湾岸ではところどころに生育している。少数株が見られるだけのこともあるが、かなり個体数の多い場所もある。以前は気付かなかった種類であるが、近年養魚場跡地の増加に伴ってかなり増加している。何らかの人為に伴って移入された可能性が高いと思われる。ただし、養魚場跡地はウナギ養殖の衰退に伴って一時的に形成された環境なので、そのうちに埋め立てられる可能性が高い。

【保全上の留意点】

本種を保全する必要があるかどうかにかかわらず、海岸沿いの水路については水質の保全に努める必要がある。

【特記事項】

愛知県の場合、イトモ *P. pusillus* L. (577 頁) は海岸部には生育していない。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.415, 平草本Ⅰ p.12, 平新版 p.133, 環境庁 p.543.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.45. 文一総合出版, 東京.

リュウノヒゲモ *Potamogeton pectinatus* L.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 10。河口部などの水域に生育する水草で、全国的に減少傾向が著しいが、愛知県ではかなり多量に生育している場所があり、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

沈水性の多年生草本。地下茎は水中の泥中をはい、1節おきに水中茎を出す。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、全て沈水葉、葉身は狭線形、長さ 5~10cm、幅 0.5~1mm、全縁、基部は托葉と合着して長さ 1~2cm の葉鞘となり、葉鞘の上端には耳状突起がある。花期は 6~9 月、葉腋から長さ 4~10cm の花茎を出し、その先に長さ 1.5~4cm の穂状花序をつける。花序は節間が伸び、まばらに花をつける。ただし、愛知県では、開花結実は極めて稀である。夏の終わり頃から、地下茎の先端に長さ 4~8mm の塊茎を作り、これにより無性繁殖と越冬を行う。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 豊橋南部 (芹沢 81133, 2006-10-14)、17 田原東部 (小林 72596, 2001-6-30)、18 田原西部 (芹沢 78188, 2002-10-3)。西：34b 碧南 (芹沢 81124, 2006-10-8)、36 西尾南部 (中根幸司 1894, 2007-10-13)。尾：41a 東海 (加藤雅憲 1390, 1997-9-26)、58b 弥富 (芹沢 89319, 2014-6-25)。

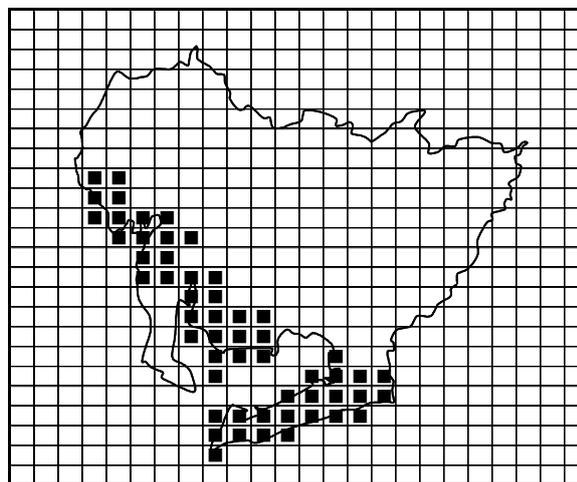
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

世界の温帯~熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

主として海岸近くの池沼や水路に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	○

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地点はそれほど多くないが、ある場所ではしばしば多量に生育している。かなり水質汚濁が進んだ場所に生育していることもある。それでも、おそらく過去に比較すれば著しく減少しているものと思われる。

【保全上の留意点】

本種が生育しているような河口部の水域は、開発圧力が高く、人為的な水の汚染も起きやすい。河口部河川後背地の自然環境の保全について、長期的な戦略が必要である。

【特記事項】

センニンモと共に、葉の基部が葉鞘になることが特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.417, 平草本Ⅰp.12, 平新版Ⅰp.134, SOS 新版 p.159,161.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.

ホンゴウソウ *Sciaphila nana* Blume

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 9。全国的に希少とされる腐生植物であるが、愛知県では最近多くの新産地が発見された。

【形態】

多年生の腐生植物。地下に白色の根茎がある。地上茎は極めて細く、直立してまばらに分枝し、高さ 3~13cm になる。葉は鱗片状で長さ約 1.5mm、茎と共に紫褐色である。花期は 7~10 月、茎や枝の先端に長さ 0.5~2cm の総状花序をつけ、4~15 個の花をつける。花は単性で、花序の下部は雌花、上部は雄花となる。雄花は直径約 2mm、花被は 6 裂し、うち 3 個は大きく、他の 3 個は小さく先端に球形の付属体をつける。果実は多数の心皮が集まり、球形で直径約 2mm の集合果となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部 (瀧崎吉伸 27077, 2010-9-4)、18 田原西部 (永田芳男 s.n., 2003-8-5)。西：20 足助 (芹沢 92808, 2017-8-9)、21 下山 (芹沢 90681, 2015-9-25)、24 豊田東部 (木村修司 s.n., 2002-7-27)、25 豊田北西部 (木村修司 s.n., 2002-8-1)、28 額田 (芹沢 87964, 2012-9-26)、29 岡崎北部 (芹沢 90678, 2015-9-25)、30 岡崎南部 (小林・守谷 s.n., 2013-8-27)。尾：37a 瀬戸 (飯尾俊介 430, 2017-8-15)、50 名古屋北部 (西部めぐみ s.n., 2019-9-4, NBC)。12 新城 (庭野, 鳥居喜一、1941-9-14, HNSM)、46b 大口 (井波一雄 s.n., 1942-6-28, CBM 182080)、53 一宮東部 (大赤見八幡神社, 戸松滋正 s.n., 1934-8-19) で採集された標本もあり、このうち一宮東部の自生地は国指定天然記念物であった。

【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球にややまれに生育する。

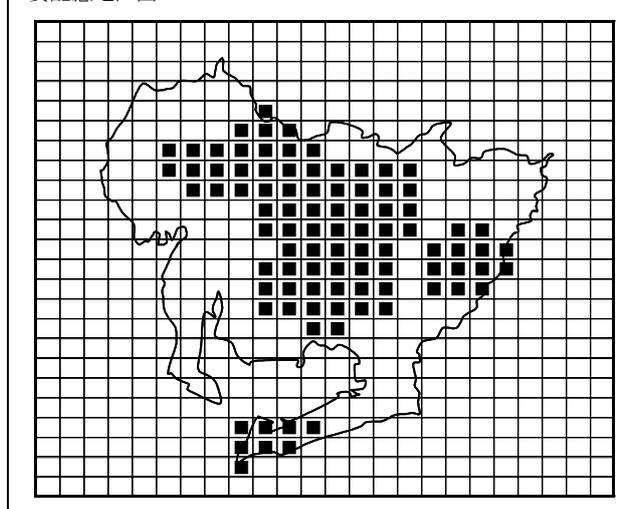
【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

暗い林内の落葉の間に生育する。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／増加の要因】

レッドデータブックあいち 2001 植物編では「絶滅」とした植物である。一宮東部では、伊勢湾台風により林が破壊され、絶滅したと言われる。2009 年版の時点では自生地が 4 カ所発見されたが、どの場所も個体数は少なく、特に豊田東部は 1 株確認されただけであった。しかし、その後自生地が続々発見され、2015 年の第 3 次レッドリストでは準絶滅危惧になり、今回のレッドデータブックではリスト外と判定されるに至った。里山の森林化によって、近年急激に増加している植物と思われる。ただし、新産地の多くが開発事業に伴う環境影響評価のための調査で発見されていることから明らかなように、開発圧力も大きい。

【保全上の留意点】

里山の森林化は、とても止めることができない趨勢である。自然環境の全体的保全は必要であるが、本種の場合個々の自生地をどうしても保全しろと言える状況ではなくなってしまった。

【特記事項】

和名は、三重県桶町本郷で最初に発見されたからである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.391, 平草本 I p.19, 平新版 1 p.152, 環境省 p.546, SOS 旧版 p.91.

マメツタラン *Bulbophyllum drymoglossum* Maxim. ex Okubo

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 10。自然度の高い森林に依存する着生植物であるが、その中には生育地も個体数も比較的多く、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は細く、横にはい、偽球茎をつくらず、まばらに葉をつける。葉は無柄、葉身は卵円形、長さ 7~10mm、幅 5~8mm、先端は円頭、葉質は肉質で脈は見えない。花期は 5~6 月、葉の基部から長さ 7~10mm の糸状の花茎を出し、その先端に淡黄色 (まれに暗紅色) の花を 1 個つける。苞は卵形で鈍頭、膜質、がく片は 3 枚で広披針形、長さ 7~8mm、側花弁は長楕円形、長さ 3~4mm、唇弁は広披針形、がく片より短く、やや鈍頭、外側に湾曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46953, 1993-8-22)、2 豊根 (小林 41304, 1993-4-11)、3 東栄 (小林 64499, 1999-7-5)、6 設楽西部 (小林 41683, 1993-4-24)、7 設楽東部 (夏目一平 29, 2009-12-12)、8 鳳来北東部 (芹沢 85160, 2009-10-10)、9 鳳来南部 (福岡義洋 4732, 1999-11-18)、15 豊橋北部 (小林 70062, 2000-7-16)、17 田原東部 (小林 47767, 1993-9-12)、18 田原西部 (小林 47761, 1993-9-12)。尾：37a 瀬戸 (日比野修 400, 1992-6-13)。11 作手にもあるという (小林 2000)。西三河では、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 295, 1958-8-18) で採集された標本はあるが、最近確認されていない。45 犬山 (成瀬賢 720, 1958-5-18) で採集された標本もある。

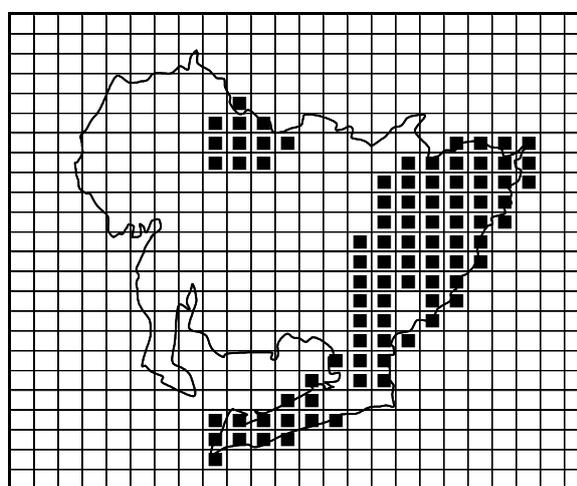
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島南部、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の樹幹や岩上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ムギランよりは少ないが、それでもあちこちで見ることができる。愛知県では岩場に生育することが多いが、ツガなどに着生することも少なくない。樹幹に着生する場合は、確認できるものは実際に存在する量のごく一部にすぎないと思われる。森林性の植物であるため、自然林が広範囲に伐採された時代には相当減少したものと思われる。ラン科植物としては花が目立たないので、園芸目的の採取は、現在のところそれほど脅威になっていない。

【保全上の留意点】

本種が絶滅危惧種であるかどうかにかかわらず、本種が生育しているような自然度がある程度高い森林は、今後も注意して保全していく必要がある。

【特記事項】

和名は、全形がシダ植物のマメツタに似ているからである。マメランとも呼ばれる。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.184. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本Ⅲp.59, 平草本 I p.231, 平新版 1 p.184.

ムギラン *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 9。自然度の高い森林に依存する着生植物であるが、その中では生育地も個体数も比較的多く、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

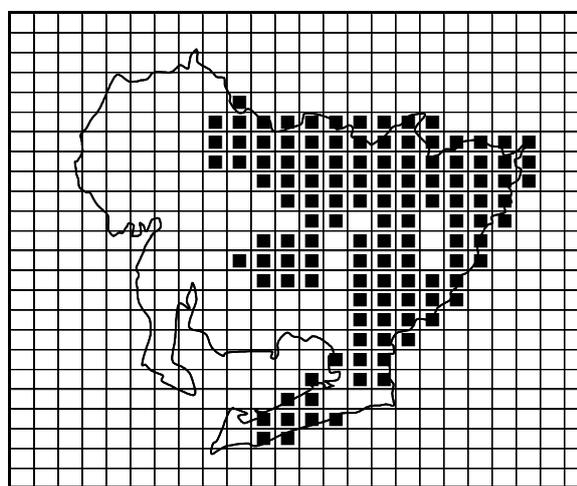
常緑性の多年生草本。茎は細く、横にはい、卵球形で長さ 6~8mm の偽球茎をまばらに連ね、その上に 1 個の葉をつける。葉は肉質で厚く、長楕円形、長さ 1~3cm、幅 6~8mm、先端は円頭、中脈は明瞭である。花期は 6~7 月、偽球茎の基部から長さ 6mm ほどの花茎を出し、その先端に帯黄白色の花を 1~3 個つける。苞は長楕円形で膜質、がく片は 3 枚で卵状楕円形、長さ 3~3.5mm、側花弁はがく片とほぼ同長で、辺縁に毛がある。唇弁は卵形で厚く、ずい柱の基部から出る突起の先につく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46957, 1993-8-22)、2 豊根 (加藤等次 3704, 1993-9-11)、3 東栄 (小林 39483, 1992-9-19)、6 設楽西部 (小林 41684, 1993-4-24)、9 鳳来南部 (福岡義洋 4733, 1999-11-18)、15 豊橋北部 (芹沢・芳山 254, 1984-10-10)、17 田原東部 (小林 40833, 1993-3-14)。西：5 稲武 (小林 45943, 1993-8-3)、19 旭 (塚本威彦 565, 1993-6-16)、20 足助 (日比野修 3294, 1996-4-17)、22 小原 (日比野修 2340, 1994-7-11)、23 藤岡 (日比野修 3586, 1996-7-7)、29 岡崎北部 (小林 55381, 1994-12-3)。尾：37a 瀬戸 (塚本威彦 147, 1992-6-13)。11 作手と 12 新城にもあるという (小林 2000)。13 豊川 (宮路山, 加藤等次 s.n., 1949-10-23)、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 296, 1958-5-19)、48 春日井 (坂下町内津, 井波一雄 s.n., 1934-11-18, CBM264612) で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

山地の樹幹や岩上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

多いと言うほどではないが、あちこちで見ることができる。愛知県ではカヤヤスギなどの針葉樹に着生することが多く、岩場にも見られる。樹幹に着生する場合は、確認できるものは実際に存在する量のごく一部にすぎないと思われる。森林性の植物であるため、自然林が広範囲に伐採された時代には相当減少したものと思われるが、近年に限ればさほど減少してはいない。遷移等によって消滅するおそれはなく、また園芸目的の採取も、現在のところはそれほど脅威になっていない。

【保全上の留意点】

マメヅタランの場合と同様、本種が生育しているような自然度がある程度高い森林は、今後も注意して保全していく必要がある。また、神社の境内にあるスギなどの大木は、樹齢数百年になっていることも多く、ムギランやセッコクなど多くの着生ランの生育適地になっている。文化財としても重要であるが、その木 1 本だけでなく、周囲の樹木も含めて保全することが必要である。

【特記事項】

和名は、偽球茎が麦粒に似ているからである。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.184. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本Ⅲ p.59, 平草本 I p.231, 平新版 1 p.185.

ナガエミクリ *Sparganium japonicum* Rothert

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 9。水生植物であるが、愛知県では生育地も個体数も比較的多く、直ちに絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

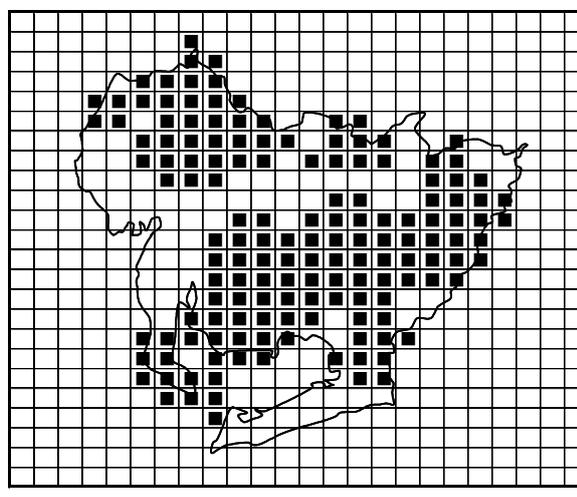
多年生草本。地中を横にはう根茎がある。茎は立ち、分枝せず、高さ 35～100cm になる。葉は 2 列に互生し、線形、抽水葉は裏面に稜があって断面は三角形になり、幅 7～14mm、下部は葉鞘となる。花期は 6～9 月、雌雄同株、茎の上部に雄性の頭状花序をややまばらに 5～10 個つけ、その下に雌性の頭状花序を 2～6 個つける。雌性花序のうち下部 1～3 個は、長さ 1～3.5cm の柄があり、少なくとも最下のものは柄が主軸と合着しない。雌性花序は球形で、果期には直径 1.5～2cm になり、果実は紡錘形、本体は長さ約 4mm で、短い小柄がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 58432, 1995-10-14)、4 津具 (小林 39054, 1992-8-30)、8 鳳来北東部 (石川静雄 208, 1998-6-7)、11 作手 (小林 53017, 1994-8-3)、15 豊橋北部 (小林 70256, 2000-8-12)。西：19 旭 (日比野修 3818, 1996-10-12)、21 下山 (芹沢 83068, 2008-8-26)、26 豊田南西部 (畑佐武司 4568*, 2002-8-2)、28 額田 (福岡義洋 s.n., 1991-8-25)、29 岡崎北部 (芹沢 71255*, 1994-10-6)、30 岡崎南部 (芹沢 78069, 2002-9-10)、31 幸田 (小林 61921, 1997-8-14)、33 安城 (堀田喜久 953*, 1993-10-10)、35 西尾北部 (中根幸司 1513*, 2007-8-27)、36 西尾南部 (芹沢 82009, 2007-8-9)。尾：37a 瀬戸 (塚本威彦 1830, 1995-10-29)、44a 美浜 (中井三従美 32*, 1987-8-22)、45 犬山 (塚本威彦 1827, 1995-11-6)、46b 大口 (竹原芳子 1267*, 1996-9-3)、48 春日井 (芹沢 78012, 2002-8-27)、50 名古屋北部 (芹沢 76859, 2000-7-8)、54 一宮西部 (渡辺幸子 4904*, 2001-10-2)。ただし* は葉だけの標本である。53 一宮東部 (東島町, 遠藤浩三 139, 1993-8-1) にもあったが、この場所では絶滅した。

要配慮地区図



【国内の分布】 北海道南西部、本州、四国、九州。

【世界の分布】 日本、朝鮮半島、ウスリー。

【生育地の環境／生態的特性】

小河川や水路などの浅い水中に生育する。流水域に多いが、止水域にもある。流れがやや強い場所にあるものは、しばしば水中葉だけが出て、セキシウモのような形になる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県のミクリ属の中では最も個体数が多い種類で、多少汚れた水域にも生育している。しかしそれでも、河川の改修、ため池の改修や埋め立て、あるいは水質の極度の汚濁により、次第に減少している。

【保全上の留意点】

本種の主要な生育地であったはずの平野部の小河川は、ほとんどがコンクリートで三面を固められ、生活排水が流入し、一昔前とはまるで異なる状態になっている。その意味では、平野部の水草は、ごく一部の種類を除きすべて危機的であると言ってもよい。「さらさら流れる春の小川」を取り戻すことは、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、重要な課題である。

【特記事項】

和名は、下部の雌性花序に柄があるからである。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 11 に掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.420, 平草本Ⅰ p.143, 平新版Ⅰ p.278, SOS 旧版 p.103.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.80. 文一総合出版, 東京.

チャボイ *Eleocharis parvula* (Roem. et Schult.) Link ex Bluff, Nees et Schauer

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 10。沿岸部の低湿地に生育する植物であるが、富栄養化した場所にも生育しており、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

小型の1年生草本。茎は束生し、高さ3~10cmになり、秋に細い匍枝を出してその先に披針形~鉤形で長さ2~3mmの塊茎をつける。葉は線形、茎と同長かそれよりやや短い。花・果期は6~10月、小穂は茎の先端に1個頂生し、楕円形~長卵形、淡緑色で長さ2~3mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 豊橋南部(芹沢 81134, 2006-10-14)、17 田原東部(八木将勝 s.n., 2005-9-27)。西：34b 碧南(芹沢 81130, 2006-10-8)、35 西尾北部(中根幸司 1272, 2007-6-27)、36 西尾南部(芹沢 87714, 2012-7-28)。

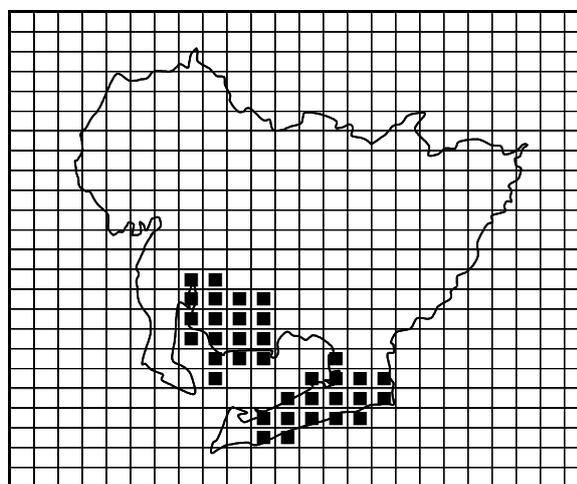
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

ユーラシア大陸、北アフリカ、南北アメリカに広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

一般には塩湿地性の植物と言われている。愛知県では海岸近くの水路の土がたまった部分や干上がった養魚場跡地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	○
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

比較的近年に愛知県での生育が確認された植物であるが、一度気づいてみるとあちこちに生育しており、時には生活排水の流入する側溝にも見られる。個体数も、ある場所ではたいていマット状に生育しており、それほど少ないものではない。長期的に見れば減少傾向にあることは確かだと思いが、近年に限れば養魚場の放棄などにより増加している可能性もある。

【保全上の留意点】

全国的には絶滅危惧II類と評価されている植物であり、堤防内側の水路などに生育しているものについてはそれなりに保全上の配慮を要する。側溝などに生育しているものについては保全のしようがなく、良好な標本資料の確保につとめる方がよい。

【特記事項】

マツバイ *E. acicularis* (L.) Roem. et Schult. var. *longiseta* Svenson に似ているが、茎はやや太く、横にはう走出枝はなく、地下に小さい塊茎をつける。

【関連文献】

平草本 I p.172, 平新版 1 p.345, 環境省 p.585.

ヒメコヌカグサ *Agrostis valvata* Steud.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 9。全国的には減少傾向の著しい植物であるが、愛知県の丘陵地ではむしろ普通種で、絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

繊細な多年生草本。小さい株になることが多い。茎は高さ 40～70cm、鮮緑色で平滑、葉は互生し、線形で柔らかく、長さ 7～15cm、幅 3～5mm、葉舌は長さ 1～3mm である。花期は 5～6 月、円錐花序は長さ 10～15cm、枝は斜めに開出し、まばらに小穂をつける。小穂は長さ 2.5～3mm、淡緑色でときに少し紫色をおびる。苞穎は広披針形で内折し、鋭頭で 1 脈がある。小花は 1 個、淡色、苞穎と同長か、それより少し長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具 (畑佐武司 7746, 2009-6-3)、6 設楽西部 (芹沢 59086, 1991-6-29)、10 鳳来北西部 (小林 52498, 1994-7-3)、11 作手 (芹沢 55051, 1990-5-23)、12 新城 (芹沢 65044, 1993-5-14)、13 豊川 (芹沢 77286, 2001-5-12)、15 豊橋北部 (龍川良克・郁子 42, 1992-4-29)、17 田原東部 (芹沢 58612, 1991-5-26)、18 田原西部 (芹沢 58214, 1991-4-19)。西：5 稲武 (芹沢 55546, 1990-6-19)、20 足助 (芹沢 92293, 2017-6-2)、21 下山 (芹沢 61994, 1992-6-26)、22 小原 (日比野修 2139, 1994-5-17)、23 藤岡 (日比野修 315, 1992-5-22)、24 豊田東部 (畑佐武司 1982, 2001-6-9)、25 豊田北西部 (土場トシ子 533, 1994-5-29)、27 みよし (芹沢 61322, 1992-5-22)、28 額田 (芹沢 81535, 2007-6-16)、29 岡崎北部 (芹沢 65283, 1993-5-20)、30 岡崎南部 (芹沢 69101, 1994-5-6)、31 幸田 (芹沢 71516, 1995-5-19)、35 西尾北部 (堀田喜久 3852, 1995-5-7)、36 西尾南部 (壁谷重美子 324, 1994-5-7)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 75451, 1999-5-5)、37b 尾張旭 (芹沢 81241, 2007-5-5)、38a 長久手 (芹沢 76735, 2000-5-15)、38b 日進 (半田多美子 1072, 1993-6-1)、39a 東郷 (芹沢 79176, 2004-5-21)、39b 豊明 (浅野守彦 1920, 2004-5-3)、41a 東海 (芹沢 72895, 1996-5-20)、42a 阿久比 (渡邊麻子 390, 1995-5-25)、42c 武豊 (芹沢 89217, 2014-5-16)、43 常滑 (梅田零奈 368, 2000-5-25)、44b 南知多 (芹沢 61386, 1992-5-28)、45 犬山 (芹沢 73742, 1997-5-31)、48 春日井 (芹沢 58358, 1991-5-6)、50 名古屋北部 (芹沢 77325, 2001-5-20)。14 蒲郡 (小林 2004) と 16 豊橋南部 (小林 2001) にもあるという。

【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の湧水湿地周辺に生育している。沢沿いの林道わきや谷戸田周辺の湿った里草地に生育していることもある。

現在の生育状況／減少の要因】

全国的には減少傾向の著しい植物であるが、愛知県の丘陵地ではむしろ普通種である。しかし、名古屋近郊では丘陵地に対する開発圧が高く、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

全国で準絶滅危惧という評価は、愛知県とその周辺に多いことに影響されていると思われる。そのため愛知県においても、それなりに生育環境の保全に配慮する必要がある。全国的な状況を知らない人からは「こんなものまで保全していたらきりが無い」という意見が出てきそうだが、裏を返せば、愛知県の丘陵地の自然はかくも貴重だということである。

【特記事項】

ヤマヌカボに似ているが、小穂が花序の枝全体につき、小花が苞穎と同長か、それより少し長いことで区別できる。小穂が緑色のものと紫色を帯びるものは他の形態的特徴でも多少異なっており、今後詳細に比較検討する必要がある。標本は、緑色のものを優先して引用した。

【引用文献】

小林元男. 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.140. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.184. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.352, 平草本Ⅰ p.125, 平新版Ⅱ p.40, SOS 旧版 p.99.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.308-309. 平凡社, 東京.

ハマナツメ *Pariurus ramosissimus* (Lour.) Poir.

【除外理由】

環境省レッドリストに掲載されているが、愛知県では幼株が1株確認されただけで定着していたとは言い難く、評価の対象にならない。

【形態】

落葉性の低木。幼樹には托葉の変化した刺がある。若枝は淡褐色の細毛が密生する。葉は互生し、長さ4~6mmの柄があり、葉身は広卵形~卵円形、長さ3~6cm、幅2~4.5cm、先端は鈍頭~円頭、基部はくさび形、辺縁には細かい鈍鋸歯があり、3脈が目立つ。花期は7~9月、花序は枝の上部の葉腋から出て、集散状に数花をつける。花は淡緑色で直径約5mm。果実は半球形で上部に3浅裂する広い翼があり、直径12~18mm、翼の辺縁には細かい歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部(赤羽根町高松, 小林 72155, 2001-5-29)。

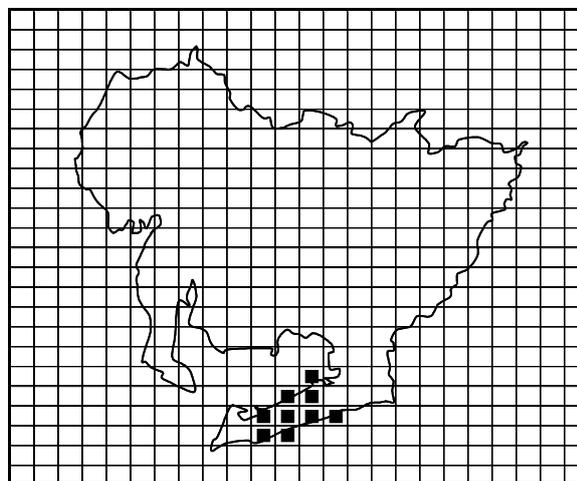
【国内の分布】

本州(東海地方以西)、四国、九州、琉球の沿海地に分布する。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、インドシナ。

要配慮地区図



【生育地の環境/生態的特性】

海跡湖の周辺などに群落を作ることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				○
水域				

【過去の生育状況/絶滅の要因】

砂浜の後側にある消波ブロックの間に1株だけ生育していたらしい。「高さ1.5mほどで……、上部は枯れ上がっていて、花がついた形跡はなかった」と報告されている(小林 2002)が、その後消失してしまったという。

【保全上の留意点】

渥美半島表浜海岸は、池尻川河口が漁港として整備されてしまい、本種の生育に適する場所が失われている。今後定着することはあまり期待できないが、小河川河口部などに残存する自然地形をできるだけ保全することは重要である。

【特記事項】

2009年版では絶滅EXとして掲載した。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.48-49. 東三林業振興会, 豊橋.

【関連文献】

保木本 I p.245, 平木本 II p.54. 平新版 2 p.321, 環境省 p.449.

サクラバハンノキ *Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 9。全国的にはやや希少な樹木であるが、愛知県では生育地も個体数も多く、さしあたり絶滅が危惧される状況ではない。

【形態】

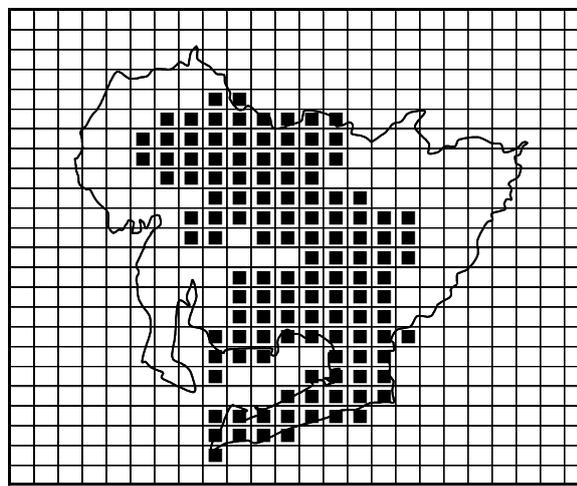
落葉性の小高木～高木。大きいものは高さ 20m に達する。樹皮には目玉状の枝の脱落痕がある。枝は灰褐色で、皮目は小さく円形である。葉は互生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は卵状楕円形～長楕円形、長さ 5～9cm、幅 2～5cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広くさび形～浅い心形、辺縁には細鋸歯があり、側脈は 9～12 対あって下面に隆起する。葉は乾くと赤褐色になる。雌雄同株で、花期は葉が展開する前の 2～3 月、雄花序は尾状で、枝の先端に 4～5 個下垂し、雌花序はその下方に 3～5 個つく。果穂は楕円形、長さ 1.5～2cm、果実は扁平で、長さ 2.5～3.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手 (芹沢 55871, 1990-7-8)、13 豊川 (芹沢 51556, 1989-5-25)、15 豊橋北部 (小林 64989, 1998-8-28)、16 豊橋南部 (芹沢 58595, 1991-5-26)、17 田原東部 (芹沢 56315, 1990-8-9)、18 田原西部 (芹沢 58619, 1991-5-26)。西：21 下山 (小林 53330, 1994-8-21)、22 小原 (芹沢 56577, 1990-8-25)、23 藤岡 (芹沢 91362, 2016-8-23)、24 豊田東部 (芹沢 75860, 1999-6-21)、25 豊田北西部 (芹沢 51448, 1989-5-13)、27 みよし (芹沢 52533, 1989-8-1)、28 額田 (芹沢 57982, 1990-10-27)、30 岡崎南部 (芹沢 69871, 1994-6-23)、31 幸田 (芹沢 72502, 1995-10-4)、36 西尾南部 (芹沢 58178, 1991-4-27)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 74425, 1998-3-7)、37b 尾張旭 (芹沢 88190, 2012-10-27)、38a 長久手 (半田多美子 2728, 1999-5-2)、38b 日進 (半田多美子 2160, 1996-6-8)、39b 豊明 (浅野守彦 2169, 2013-4-28)、48 春日井 (秋山葉子 87, 1993-5-31)、50 名古屋北部 (芹沢 90821, 2015-10-9)。しかし、作手を除けば三河山地にはなく、平野部にも見られない。知多半島でも現在のところ確認されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州 (茨城県、新潟県以西) および九州 (宮崎県)。

【世界の分布】

日本および中国大陸南東部。

【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の周辺や、その下流の沢沿いに生育する。沢沿いのものは幹が直立し高木になるが、湿地周辺のものあまり大きくならないことが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地ではあちこちに生育している。しかし、森林化の進行につれてやせ山の状態が失われ、後継樹が生長できる機会は減少しており、その点で将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

全国的に見れば希少な樹木で、準絶滅危惧という評価は愛知県やその周辺に多いことに影響されていると思われる。そのため愛知県においても、それなりに保全上の配慮を要する。個体レベルでの保全に限ればそれほど神経質になる必要はなく、むしろ森林の伐採や崩壊地の放置などにより、本種が個体群として存続できるような条件を整える必要がある。全国的な状況を知らない人からは、ヒメコヌカグサと同様「こんなものまで保全していたらきりが無い」という意見が出てきそうだが、裏を返せば、愛知県の丘陵地の自然はかくも貴重だと言うことである。

【特記事項】

ハンノキに比べ、葉の基部が丸味を帯び、側脈が多く、また低湿地には生育しない。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.287, 平木本Ⅰ p.55, 平新版Ⅲ p.110, SOS 旧版 p.45, SOS 新版 p.110,112.

ミズマツバ *Rotala mexicana* Cham. et Schltl.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 9。愛知県では生育地も個体数も多く、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。全国的に見ても、それほど希少とは思えない。

【形態】

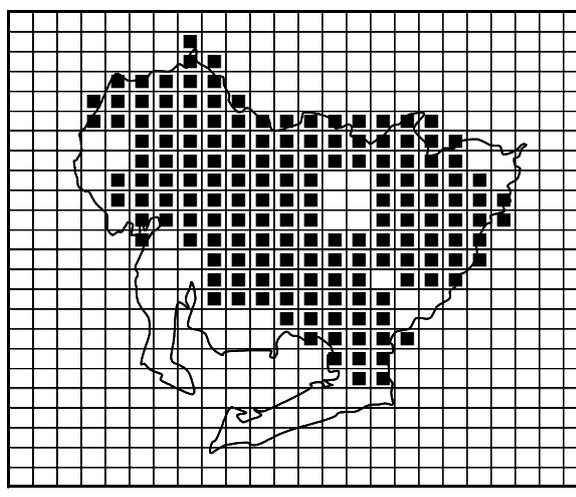
小型の1年生草本。茎の基部は地面をはい、分枝して立ち上がり、高さ3~10cmになる。葉は3~4個輪生し、無柄、線形~狭披針形、長さ6~10mm、幅約1~2mm、先端は鋭~鈍頭で微凹端となる。花期は8~10月、花は葉腋に単生し、柄がなく、淡紅色。がく筒ははじめ鐘形、のちに球形となり、3角形で長さ約0.8mmの5裂片があり、花弁はない。蒴果は球形、長さはがくの2倍ほどある。種子は細かく、黒褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (芹沢 84979, 2009-9-21)、4 津具 (芹沢 74857, 1998-8-23)、6 設楽西部 (小林 39661, 1992-9-23)、7 設楽東部 (小林 39500, 1992-9-19)、8 鳳来北東部 (加藤等次 3910, 1993-10-5)、10 鳳来北西部 (小林 47614, 1993-9-11)、13 豊川 (加藤等次 2266, 1992-10-18)、15 豊橋北部 (芹沢 44782, 1986-9-22)。西：5 稲武 (芹沢 63223, 1992-9-8)、19 旭 (塚本威彦 765, 1993-8-24)、22 小原 (塚本威彦 1761, 1995-9-29)、24 豊田東部 (山崎玲子 1638, 1997-10-7)、25 豊田北西部 (畑佐武司 2326, 2001-8-15)、26 豊田南西部 (畑佐武司 2526, 2001-9-23)、28 額田 (芹沢 57164, 1990-9-21)、29 岡崎北部 (中西普佐子 1674, 1993-9-26)、30 岡崎南部 (芹沢 70964, 1994-9-22)、33 安城 (堀田喜久 926, 1993-10-3)。尾：37a 瀬戸 (日比野修 1771, 1993-9-26)、37b 尾張旭 (村松正雄 27193, 2013-11-23)、38b 日進 (半田多美子 1302, 1993-9-11)、45 犬山 (芹沢・松田 183, 1996-9-26)、48 春日井 (芹沢 75086, 1998-9-30)、50 名古屋北部 (鳥居ちよ子 3414, 2014-10-15)、51 名古屋南東部 (渡辺幸子 4056, 1993-10-8)、52 名古屋南西部 (高木順夫 5013, 1994-8-19)、53 一宮東部 (渡辺幸子 4895, 2001-9-25)、54 一宮西部 (渡辺幸子 5168, 2002-9-24)。丁寧に調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。ただし、平野部の広い水田には稀である。

要配慮地区図



【国内の分布】 本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】 日本、朝鮮半島、中国大陸、フィリピン、インド、中央アジア、アフリカなどに広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田に生育する。ため池の岸などの低湿地に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小型で目立たない植物であるが、よく探せば決して少ない植物ではない。愛知県の水田雑草は、強力な除草剤が使用されなくなってから全体的にやや復活傾向にあるが、本種の場合は以前から多かった。ただし都市近郊では、水田の宅地化などにより、本種も減少傾向にある。

【保全上の留意点】

本種の保全に関しては、現状では自然環境一般の保全という枠の中で考えるだけでよい。

【特記事項】

本種が環境省のレッドリストに掲載されたのは、小型の植物でよく観察されておらず、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。もっとも本種のような見落としやすい植物が全国版レッドリストに掲載されていると、環境影響評価などの調査精度をチェックする上では好都合である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.47, 平草本Ⅱ p.261, 平新版Ⅲ p.259, 環境省 p.454.

ウスゲチヨウジタデ *Ludwigia greatrexii* H.Hara

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 8。愛知県では生育地も個体数も多く、水田雑草としてしばしば出現し、当面絶滅が危惧される状態ではない。全国的な状況ははっきりしないが、チヨウジタデと混同されていることが多いと思われる。

【形態】

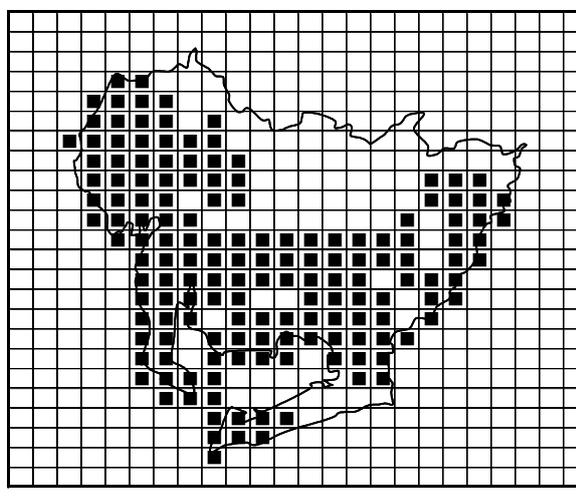
1年生草本。茎は直立または斜上し、よく分枝して、高さ30~70cm、細毛があり、あまり紅色を帯びない。葉は互生し、短い柄があり、葉身は披針形~長楕円状披針形、長さ7~8cm、幅1~2cm、先端は鋭~鈍頭、辺縁は全縁、細毛がある。花期は8~10月、花は葉腋に1個ずつつき、無柄、がく片はふつう5個で、長さ3~4mm、花弁は5枚で倒卵形、長さ約4mm、花床には白毛が密生する。蒴果は線形でやや曲がり、長さ約2cm、先端にがく片が残存する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (芹沢 84977, 2009-9-21)、9 鳳来南部 (芹沢 83493, 2008-10-4)、10 鳳来北西部 (小林 53555, 1994-9-9)、13 豊川 (芹沢 89729, 2014-10-4)、14 蒲郡 (鈴木美恵子 259, 1992-9-19)、15 豊橋北部 (芹沢 86449, 2010-10-11)、18 田原西部 (小林 47056, 1993-8-28)。西：28 額田 (芹沢 86344, 2010-10-2)、29 岡崎北部 (杉田一記 1415, 2010-9-9)、33 安城 (堀田喜久 6406, 1998-9-13)、36 西尾南部 (芹沢 82248, 2007-9-13)。尾：38b 日進 (伊藤恭子 618, 1992-9-18)、40b 東浦 (渡邊麻子 749, 1995-9-10)、41b 知多 (加藤雅憲 696, 1996-9-19)、42a 阿久比 (渡邊麻子 718, 1995-8-30)、42b 半田 (芹沢 77062, 2000-10-11)、42c 武豊 (芹沢 88905, 2013-9-24)、43 常滑 (芹沢 95750, 2019-9-10)、44a 美浜 (芹沢 77741, 2001-10-23)、44b 南知多 (芹沢 63671B, 1992-9-22)、49c 北名古屋 (芹沢 93464, 2017-9-25)、49d 清須 (芹沢 78839, 2003-9-15)、50 名古屋北部 (芹沢 80104, 2005-8-14)、52 名古屋南西部 (芹沢 78131, 2002-9-16)、53 一宮東部 (芹沢 70909, 1994-9-20)、54 一宮西部 (芹沢 77722, 2001-10-7)、55 稲沢 (渡辺幸子 5181, 2002-9-24)、56a あま (芹沢 53710, 1989-10-1)、56b 大治 (芹沢 93502, 2017-9-25)、58b 弥富 (芹沢 70841, 1994-9-15)。丁寧調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。ただし、三河山間部には分布していないらしい。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

夏~秋の水田雑草として生育している。低湿地に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

現在の生育状況／減少の要因】

チヨウジタデに比べればずっと少ないが、特に希少というわけではない。耕地整理が進んだ水田でも見られる。しかしそれでも、近年はやや減少している。

【保全上の留意点】

本種の保全に関しては、現状では自然環境一般の保全という枠の中で考えるだけでよい。

【特記事項】

本種が環境省のレッドリストに掲載されたのは、チヨウジタデと混同されており、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。もっとも本種のような見落としやすい植物が全国版レッドリストに掲載されていると、ミズマツバと同様、環境影響評価などの調査精度をチェックする上では好都合である。チヨウジタデからは、毛の状態を見なくても、全体にあまり紅色を帯びず、葉が細く、花弁もがく片も大きいことで区別できる。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.44, 平草本Ⅱ p.267, 平新版 3 p.268.

サクラガンピ *Diplomorpha pauciflora* (Franch. et Sav.) Nakai

【除外理由】

環境省レッドリストに掲載されている種類で、愛知県では1回採集されただけであるが、おそらく移入で、評価の対象にならない。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ2mくらいになる。葉は互生し、愛知県で採集されたものでは長さ1.5~3mmの柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ2.5~4.5cm、幅1.3~2cm、先端は鋭頭~鈍頭、基部は広くさび形、全縁で両面に毛がある。花期は7月上旬に咲き始めの状態で、枝端にまばらな円錐花序をつくり、淡黄色、がく筒は長さ5~6mmであった。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：50名古屋北部(守山区小幡緑地、鳥居ちよ子 3564, 2016-7-6)。

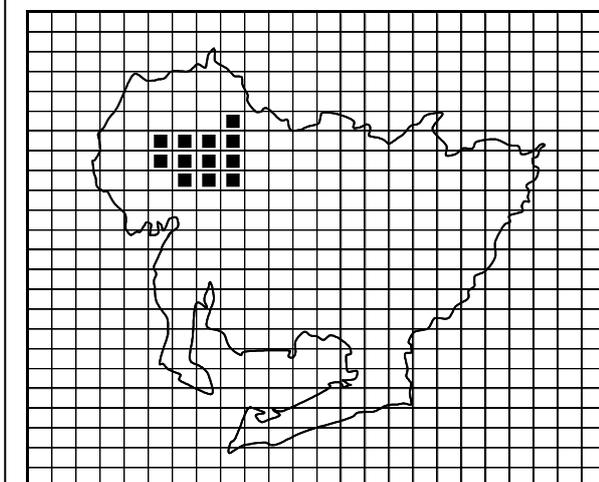
【国内の分布】

本州(関東地方南部、伊豆半島)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

自生地では山中の溪側に生育するという。愛知県では公園内の遊歩道わきに生育していた。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

1株だけであったが、意図的に植えられたものには見えなかったとのことである。2018年に現地に行ったときには見当たらなかった。

【保全上の留意点】

本来の自生ではないと思われるので特に配慮する必要はないが、愛知県での記録は少ないので、見かけたら標本を作成してほしい。

【特記事項】

キガンピ(508頁)に似ているが、葉は明らかに互生し、茎と共に毛が多い。

【関連文献】

保木本I p.226, 保木本II p.82, 平新版4 p.40, 環境省 p.451.

コイヌガラシ *Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 10。愛知県では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

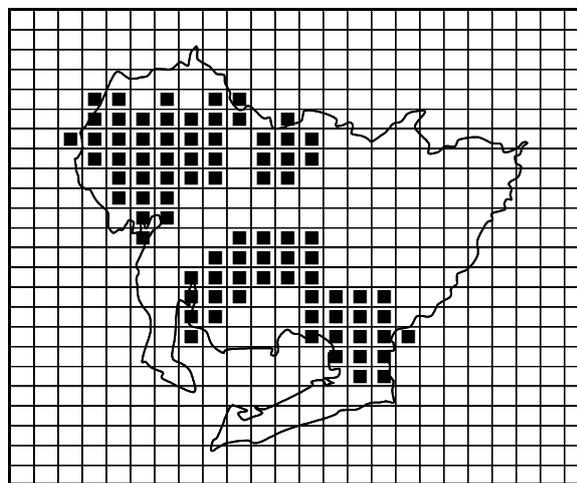
1年生または越年生の草本。茎は下部からよく分枝し、高さ 10~40cm になる。葉は互生し、下部のものは有柄、上部のものは無柄、葉身は長さ 2~10cm、基部に耳部があり、羽状深裂、裂片は長楕円形で辺縁に鋸歯がある。花期は 4~5 月、葉腋から短い花柄を出し、黄色の花をつける。がく片は直立し、長楕円形で長さ約 1.5mm、花弁は倒卵形で長さ 2~2.5mm である。果実はさく果で直立し、円柱形、長さ約 7~9mm、幅 1.5~2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (加藤等次 2265, 1992-10-18)、15 豊橋北部 (瀧崎吉伸 9319, 1987-4-13)。
西：23 藤岡 (村松正雄 20619, 2001-6-3)、29 岡崎北部 (中西佐佐子 114, 1992-7-5)、33 安城 (小林 65745, 1999-4-3)、34b 碧南 (芹沢 64826, 1993-5-7)。尾：48 春日井 (芹沢 71325, 1994-10-15)、49c 北名古屋 (芹沢 94062, 2018-5-18)、49d 清須 (芹沢 78583, 2003-5-5)、50 名古屋北部 (鳥居ちゆ子 4365, 2018-11-16)、52 名古屋南西部 (芹沢 79163, 2004-5-10)、54 一宮西部 (渡辺幸子 811, 1993-4-6)、55 稲沢 (水野峰子 405, 1995-4-2)、56b 大治 (芹沢 94978, 2018-10-22)。生育地はほとんど平野部に限られている。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、ウズベキスタン。

【生育地の環境／生態的特性】

水田や低湿地に生育する。場所によっては、春の水田雑草となっている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

イヌガラシやスカシタゴボウに比べればはるかに少ないが、それでも注意して探せば、あちこちに生育している。尾張の平野部では、耕地雑草になっている場所もある。しかし、東三河や西三河では、それほど多くない植物である。

【保全上の留意点】

東三河や西三河では、保全上ある程度の配慮が必要である。尾張平野部の農耕地に生育しているものについては、当面配慮は不要であるが、今後の増減には注意しておく必要がある。

【特記事項】

花柄が短く、見かけはイヌガラシやスカシタゴボウとはずいぶん異なっている。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.183, 平草本Ⅱ p.136, 平新版 4 p.68, SOS 新版 p.139,141.

コギシギシ *Rumex dentatus* L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech.f.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 9。低湿地性の植物で、近年確認される事例が増加している。ただし、その多くは帰化系統の疑いがあるミドリコギシギシの型で、狭義コギシギシに限れば、個体数階級と集団数階級は共に 2 で総点 11、準絶滅危惧と評価される。

【形態】

多年生草本。高さは通常 30～50cm である。茎の下部の葉には長い柄があり、葉身は長楕円状披針形～披針形、長さ 5～10cm、幅 1.5～3.5cm、先端は鈍頭、基部は広くさび形～浅い心形、辺縁はやや波状になり、両面とも無毛である。上部の葉は互生し、次第に小さくなる。花期は 4～5 月、果実をかこむ花被片は卵形で長さ 4mm 程度、辺縁に顕著な刺毛があり、中肋のこぶ状突起は長卵形で、長さは花被片の約 2/3 である。在来系統と思われる茎が紅色を帯びて直立し分枝の少ない型（狭義コギシギシ）と、帰化系統の疑いがある茎が緑色で基部からよく分枝する型（ミドリコギシギシ）があるが、時に中間的な形態のものも出現する。

【分布の概要】

【県内の分布】

狭義コギシギシの型は、東：13 豊川（芹沢 84059, 2009-5-24）、16 豊橋南部（芹沢 75537, 1999-5-16）、17 田原東部（小林 74617, 2002-4-7）、尾：40b 東浦（芹沢 69286, 1994-5-18）、41a 東海（花井隆晃 5116, 2013-5-1）、45 犬山（芹沢 79198, 2004-5-29）、49c 北名古屋（芹沢 95147, 2019-5-12）、49d 清須（芹沢 95137, 2019-5-12）、51 名古屋南東部（渡辺幸子 4658, 2001-5-6）、52 名古屋南西部（芹沢 79165, 2004-5-10）、56a あま（芹沢 69178, 1994-5-9）、56b 大治（芹沢 80540, 2006-5-21）で採集されているが、北名古屋と清須を除けば稀である。西三河ではまだ確認されていない。ミドリコギシギシの型は、東：17 田原東部（小林 74871, 2002-5-11）、18 田原西部（芹沢 87098, 2011-6-15）、西：32a 刈谷（芹沢 92646, 2017-7-10）、尾：40b 東浦（芹沢 69293, 1994-5-18）、41a 東海（岡島錦也, 80, 1992-7-1）、43 常滑（近藤洋一朗 5492, 1998-6-17）、49a 岩倉（鈴木幸子 914, 1997-4-29）、49b 豊山（鈴木幸子 587, 1993-5-5）、49c 北名古屋（芹沢 95148, 2019-5-12）、49d 清須（芹沢 95135, 2019-5-12）、50 名古屋北部（芹沢 95158, 2019-5-12）、52 名古屋南西部（芹沢 93859, 2018-4-14）、56a あま（鈴木秀樹 2272, 1996-5-30）、58c 飛島（芹沢 92424, 2017-6-12）で採集されている。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【生育地の環境／生態的特性】

狭義コギシギシの型は、耕起前の水田雑草として出現することが多い。河川敷などに生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

狭義コギシギシの型は、北名古屋と清須ではところどころの水田に生育しているが、他では一時的にはある程度の個体数が見られても、継続的に観察できる場所はほとんどない。一方で未整理耕地の減少、他方で都市化の進行に伴う都市近郊での水田の消失が、減少の主要因である。ミドリコギシギシの型も、出現はやや偶発的である。

【保全上の留意点】

狭義コギシギシの型については、保全上それなりの配慮を要する。ミドリコギシギシの型については、さしあたり配慮する必要はない。

【特記事項】

エゾノギシギシに似ているが、茎はやや紅色を帯び、葉は小さく、裏面は無毛である。また、エゾノギシギシが他のギシギシ類よりやや遅く開花するのに対し、本種は他のギシギシ類よりやや早く開花する。「日本の野生植物」II 14 図版に本種として掲載されている写真は、エゾノギシギシである。表記学名は、多分ミドリコギシギシに当たる。

【関連文献】

保草II p.296, 平草II p.16, 平新版4 p.104, 環境省 p.393, SOS旧版 p.48, SOS新版 p.139,140.

スズサイコ *Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 10。全国的には減少傾向の著しい草地性植物であるが、愛知県では生育地も個体数もまだ比較的多い。キキョウに似た状況であるが、本種の場合は園芸目的の採取圧が少なく、そのためリスト外と判定された。

【形態】

多年生草本。多数のやや太いひげ根がある。茎は細く、直立して上部はやや傾き、高さ 40~100cm になる。葉は対生して斜上し、ほとんど無柄、葉身は狭披針形~線状長楕円形、長さ 8~16cm、幅 0.7~2cm、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁である。花期は 7~8 月、茎の先や上部の葉腋から長い柄のある花序を出し、集散状にまばらに花をつける。花冠は黄褐色で 5 裂し、裂片は開出して長さ 5~8mm、副花冠は直立し、卵形、鈍頭で、ずい柱より短い。果実は袋果で細長い披針形、長さ 5~8cm、種子は卵形で狭い翼があり、長さ 4~5mm、先端に長い白毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部 (小林 66383, 1999-6-9)、9 鳳来南部 (芹沢 59261, 1991-7-24)、11 作手 (小林 58081, 1995-9-23)、12 新城 (芹沢 71747, 1995-6-15)、13 豊川 (芹沢 61750, 1992-6-18)、14 蒲郡 (井上美保子 474, 1992-9-9)、15 豊橋北部 (芹沢 71746, 1995-6-15)、17 田原東部 (芹沢 55036, 1990-5-22)、18 田原西部 (小林 44477, 1993-6-19)。西：20 足助 (芹沢 76870, 2000-7-16)、22 小原 (塚本威彦 1569, 1995-7-9)、23 藤岡 (日比野修 675, 1992-8-18)、24 豊田東部 (芹沢 76825, 2000-6-26)、25 豊田北西部 (畑佐武司 6040, 2003-7-11)、26 豊田南西部 (落合鈴枝 555, 1994-7-24)、27 みよし (芹沢 81741, 2007-7-11)、28 額田 (芹沢 59107, 1991-6-29)、29 岡崎北部 (中西普佐子 1233, 1993-8-4)、30 岡崎南部 (河江喜久代 88, 1993-7-31)、36 西尾南部 (芹沢 71105, 1994-9-24)。尾：37a 瀬戸 (大谷敏和 74, 2000-8-28)、38b 日進 (半田・村瀬 876, 1993-10-4)、39b 豊明 (浅野守彦 502, 1999-6-26)、43 常滑 (芹沢 76811, 2000-6-16)、44a 美浜 (芹沢 77745, 2001-10-23)、45 犬山 (村瀬正成 A210, 1992-7-10)、46a 扶桑 (竹原芳子 1198, 1996-8-4)、49c 北名古屋 (鈴木幸子 185, 1992-8-20)、50 名古屋北部 (鳥居ちゑ子 1980, 2001-6-28)、51 名古屋南東部 (渡辺幸子 3558, 1998-7-22)。33 安城にもあるという (安城市史編集委員会 2005)。丘陵部には点在するが、北設楽郡と濃尾平野中央部では確認されていない。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。点在するが、大きな群落は作らない植物である。愛知県では、丘陵部~低山地の谷戸田周辺の里草地に点在している。平野部では、河川の堤防や水路わきの草地などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在の所はまだ比較的多く見られるが、本種が生育できるような草地は、愛知県でも次第に減少している。このままでは、本種も遠からず準絶滅危惧と評価されるようになる可能性が高い。

【保全上の留意点】

本種の場合は、全国的に見れば、愛知県の状況が例外的と思われる。愛知県では当面絶滅が危惧されなくても、可能な限り生育地を保全すべき植物である。良好な里草地にはしばしば生育しているから、本種を指標として、保護を要する里草地を抽出することもできる。

【特記事項】

和名は、つぼみが鈴に似て、全形が薬用のミシマサイコに似ているからである。

【引用文献】

安城市史編集委員会(編). 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.75. 安城市, 安城.

【関連文献】

保草本 I p.206, 平草本 III p.40, 平新版 4 p.317, SOS 新版 p.82,84.

イヌノフグリ *Veronica polita* Fr. var. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 9。全国的には帰化植物に圧迫されて著しく減少しているようだが、愛知県ではよく探せばあちこちに見られる。

【形態】

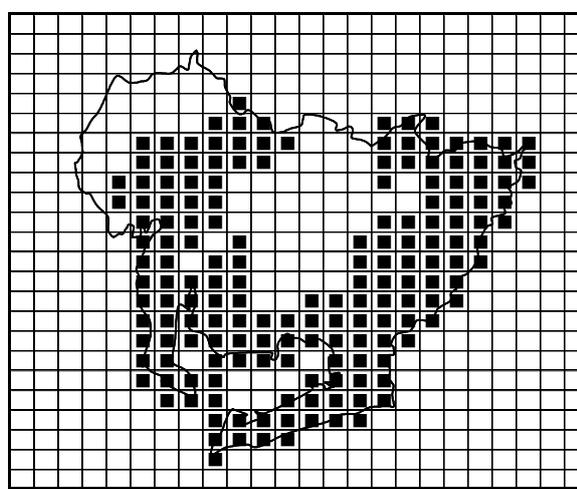
越年生草本。茎は下部で分枝し、地をはって広がり、長さ 10~25cm になる。葉は茎の下部では対生、上部では互生、有柄、葉身は卵円形で長さ幅ともに 4~11mm、辺縁には数対の先の鈍い鋸歯があり、両面に毛が散生する。花期は 3~4 月、花は茎の上部の葉腋に 1 個ずつつき、長い柄がある。花冠は淡紅白色で紅紫色の条があり、直径 3~4mm で 4 裂する。果実は蒴果で、中央がくびれ、上部両端は丸く、長さ 2.5~3mm、幅 4~5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 51267, 1994-5-7)、2 豊根 (小林 63646, 1998-4-26)、3 東栄 (小林 63317, 1998-3-14)、8 鳳来北東部 (芹沢 51292, 1989-4-29)、9 鳳来南部 (小林 56161, 1995-4-9)、11 作手 (小林 56002, 1995-3-19)、13 豊川 (小林 65666, 1999-2-28)、14 蒲郡 (小林 56024, 1995-3-26)、15 豊橋北部 (芹沢 91808, 2017-4-22)、16 豊橋南部 (小林 68419, 2000-3-19)、17 田原東部 (小林 71202, 2001-3-20)、18 田原西部 (小林 71312, 2001-3-31)。西：5 稲武 (小林 56536, 1995-5-3)、33 安城 (堀田喜久 6711, 1999-4-3)、34a 高浜 (渡辺幸子 4992, 2002-3-13)、34b 碧南 (畑佐武司 1084, 2000-3-19)、36 西尾南部 (壁谷重美子 128, 1994-4-5)。尾：37a 瀬戸 (村松正雄 23010, 2006-4-28)、41a 東海 (吉鶴靖則 651, 2015-4-9)、43 常滑 (鳥居ちゑ子 1903, 2001-4-1)、44b 南知多 (芹沢 82840, 2008-4-29)、50 名古屋北部 (鳥居ちゑ子 2262, 2003-3-28)、51 名古屋南東部 (芹沢 95171, 2019-5-18)、52 名古屋南西部 (花井隆晃 4515, 2010-3-28)。12 新城にもあるという (小林 2000)。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジアの温帯~暖帯に分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

道端や土手、石垣などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

一般的に山間部の集落の石垣などに生育していることが多いと認識されているが、愛知県では沿海部にもかなり多量に生育している場所がある。このような例は、調査が進めば全国各地で確認されるのか、それとも愛知県だけの特殊事情か、現時点ではよくわからない。もちろん、あちこちに見られるとは言っても、オオイヌノフグリやタチイヌノフグリに比べればはるかに少ない植物である。帰化系統が混在している可能性もある。

【保全上の留意点】

人里に生育している植物なので、土地の造成、石垣の改修など、存続を脅かす要因も多い。個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないが、本種が生育し続けることができるような落ち着いた集落環境の保全は是非とも必要なことである。貝塚に生育していることも多いので、史跡整備などの際には注意を要する。公園化など過度の攪乱を行えば、大型の外来種に席卷されることは確実である。

【特記事項】

植物体はオオイヌノフグリをやや小さくしたような形をしているが、花が小さく、淡紅色である。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.143. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本 I p.143, 平草本 III p.111, 平新版 5 p.84, 環境省 p.504, SOS 旧版 p.81.

カワヂシャ *Veronica undulata* Wall.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 7。愛知県では生育地も個体数も多く、絶滅が危惧される状態ではない。全国的にもそれほど危機的とは思えないが、近畿地方などでは帰化植物のオオカワヂシャ *V. anagallis-aquatica* L.が増加し、それに圧迫されて減少傾向にあると言われている。

【形態】

越年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 10～50cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ 2.5～8cm、幅 0.5～2.5cm、先はややとがり、基部はやや茎を抱き、辺縁には鋸歯がある。花期は 5～6 月、葉腋から長さ 5～15cm の細い花序を出し、15～50 個の花をつける。花冠はほとんど白色で皿状に広く開き、直径 3～4mm、4 裂する。蒴果は球形で、先がわずかにへこみ、長さ幅ともに 2.5～3mm、先端に長さ 1mm ほどの花柱が残存し、果柄は曲がらずに斜上する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (芹沢 51222, 1989-4-22)、14 蒲郡 (鈴木美恵子 114, 1992-6-18)、15 豊橋北部 (芹沢 72928, 1996-6-8)、16 豊橋南部 (井上美保子 852, 1993-6-30)、17 田原東部 (芹沢 55023, 1990-5-22)。西：20 足助 (鈴木万里亜 522, 1995-5-25)、32a 刈谷 (芹沢 91170, 2016-5-27)、33 安城 (堀田喜久 10324, 2000-5-6)、34b 碧南 (芹沢 69488, 1994-5-28)、35 西尾北部 (中根幸司 1199, 2007-6-16)、36 西尾南部 (芹沢 84192, 2009-6-6)。尾：37b 尾張旭 (村松正雄 20583, 2001-5-26)、38b 日進 (半田多美子 1014, 1993-5-17)、40b 東浦 (芹沢 69295, 1994-5-18)、41a 東海 (鳥居ちゑ子 3471, 2015-5-25)、42b 半田 (芹沢 76721, 2000-5-14)、44b 南知多 (芹沢 82843, 2008-4-29)、45 犬山 (芹沢 88409, 2013-5-26)、48 春日井 (芹沢 80530, 2006-5-21)、49c 北名古屋 (鈴木幸子 428, 1993-4-21)、49d 清須 (芹沢 94047, 2018-5-18)、50 名古屋北部 (芹沢 91136, 2016-5-14)、51 名古屋南東部 (渡辺幸子 5057, 2002-5-5)、52 名古屋南西部 (芹沢 79166, 2004-5-10)、53 一宮東部 (芹沢 71479, 1995-5-17)、54 一宮西部 (渡辺幸子 267, 1992-5-19)、55 稲沢 (渡辺幸子 4689, 2001-5-15)、56a あま (芹沢 77339, 2001-5-20)、56b 大治 (芹沢 93821, 2018-3-19)、57b 愛西 (芹沢 61203, 1992-5-10)、58a 蟹江 (芹沢 92447, 2017-6-12)、58c 飛島 (芹沢 92425, 2017-6-12)。平野部に多く、ていねいに調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。ただし、山間部ではほとんど見られない。

【国内の分布】

本州 (中部地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から中国大陸、東南アジア、インドにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田や河川敷などの低湿地に生育する。特に水路の岸に多い。湿田状態が多少なりとも残されている場所では、春の水田雑草になっている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

低湿地性の植物であるが、現在のところはやや普通種である。湿田の減少に伴い、減少傾向にあることは確かである。

【保全上の留意点】

個体レベルでの保全に限れば、現状では特に神経質になる必要はない。ただし、オオカワヂシャが増加した場合には状況が変わる可能性がある。

【特記事項】

オオカワヂシャは青色のオオイヌノフグリに似た花をつける植物で、ブルーデータブックあいち 2012 p.160 では 48 春日井と 50 名古屋北部の標本を引用したが、その後 12 新城 (中西普佐子 4535, 2018-6-7)、13 豊川 (中西普佐子 3300, 2009-7-5)、15 豊橋北部 (中西普佐子 3144, 2009-4-28)、29 岡崎北部 (芹沢 93897, 2018-4-21)、45 犬山 (芹沢 88443, 2013-6-6)、49b 豊山 (鳥居ちゑ子 3342, 2014-5-1)、49d 清須 (芹沢 94048, 2018-5-8)、54 一宮西部 (芹沢 90183, 2015-6-6) などでも確認された。しかし、現在のところは、庄内川とその周辺を除けばあまり多くない。

【関連文献】

保草本 I p.143, 平草本 III p.112, 平新版 5 p.86.

タチキランソウ *Ajuga makinoi* Nakai

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 9。東海地方西部に分布の中心を持つ本地域の準固有種であるが、県内では生育地も個体数も多い。

【形態】

山地に生える多年草。茎は株から数本束生し、通常斜上するが倒伏して開出することもあり、長さ 5~20cm、全体に長い白毛が散生する。葉は対生し、下部の 1~2 対の葉は鱗片状またはさじ状となる。上部の数対の葉は長楕円形、花時には長さ 3~5cm、幅 1~1.5cm であるが夏葉はより大きくなり、先端は鋭~鈍頭、基部は細まって柄となり、辺縁には少数の先の円いあらい重歯牙がある。花期は 4~6 月、花は上部の葉腋に数個ずつつき、花冠は青紫色で長さ約 15mm、上唇は直立し、長さ 2~3mm あって 2 裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山(芹沢 51339, 1989-4-29)、2 豊根(芹沢 51313, 1989-4-29)、3 東栄(芹沢 48104, 1988-4-17)、4 津具(芹沢 83954, 2009-5-5)、6 設楽西部(芹沢 81424, 2007-5-28)、7 設楽東部(芹沢 68997, 1994-4-26)、8 鳳来北東部(芹沢 83968, 2009-5-5)、9 鳳来南部(芹沢 48127, 1988-4-17)、10 鳳来北西部(小林 60812, 1997-4-19)、12 新城(小林 60807, 1997-4-19)。西：5 稲武(小林 43075, 1993-5-22)、23 藤岡(塚本威彦 69, 1992-4-26)、24 豊田東部(佐藤久美子 321, 1993-5-4)、25 豊田北西部(畑佐武司 3085, 2002-4-20)。尾：37a 瀬戸(塚本威彦 3013, 2002-4-28)。11 作手(小林, 2000)と 13 豊川(旧音羽町, 小林, 2004)にもあるという。

【国内の分布】

本州(関東地方南西部~東海地方)。

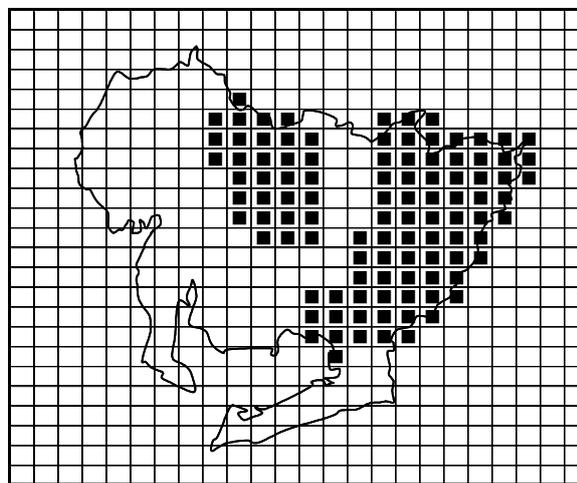
【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境/生態的特性】

山地の、主として沢沿いの林内や林縁に生育する。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況/減少の要因】

東三河の山地では比較的多い植物で、自然林や二次林だけでなく、造林地や林道わきなどにも生育している。しかし、西三河や尾張の低山地では少なく、丘陵地には見られない。

【保全上の留意点】

県全体としては当面絶滅が危惧される状態ではないが、特に尾張では生育地が限られており、保護を要する植物である。

【特記事項】

茎はキランソウよりは立つが、ニシキゴロモほどは立たない。東三河には花が大きい典型的な形態のものが多く、西三河や尾張のものはしばしば花が小さく、その点でややキランソウに近い。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.136. 愛知県, 名古屋
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.157. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本 I p.190, 平草本III p.74, 平新版 5 p.111.

マネキグサ *Loxocalyx ambiguus* (Makino) Makino

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 10。生育地はそれほど多くないが、ある場所ではたいていかなりの個体数が生育している。さしあたり絶滅が危惧される状態ではないが、ニホンジカによる食害の影響が大きくなれば、準絶滅危惧に移行する可能性が高い。

【形態】

多年生草本。細い地下茎がある。地上茎は直立し、断面は四角形、中部でしばしば分枝し、高さ 40～70cm になる。葉は対生し、長さ 1～3cm の柄があり、葉身は卵円形、長さ 3～7cm、幅 2～6.5cm、先端は鈍頭、基部は下部の葉では浅い心形であるが上部の葉では広くさび形、辺縁には大きい鋸歯があり、質はやや薄く、まばらに毛がある。花期は 8～9 月、花は葉腋に 1～3 個ずつつき、花冠は唇形で暗紅紫色、長さ 18～20mm、下唇は 3 裂して開出し、長さは 7～8mm である。果実は 4 個の分果からなり、各分果は倒卵状くさび形で長さ約 2.5～3mm、先端に腺点がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46615, 1993-8-17)、2 豊根 (小林 38681, 1992-8-10)、3 東栄 (芹沢 80842, 2006-8-27)、6 設楽西部 (芹沢 63018, 1992-8-30)、7 設楽東部 (芹沢 76215, 1999-8-29)、8 鳳来北東部 (小林 53340, 1994-8-27)、15 豊橋北部 (芹沢 76622, 1999-10-17)。西：19 旭 (芹沢 86262, 2010-9-25)。

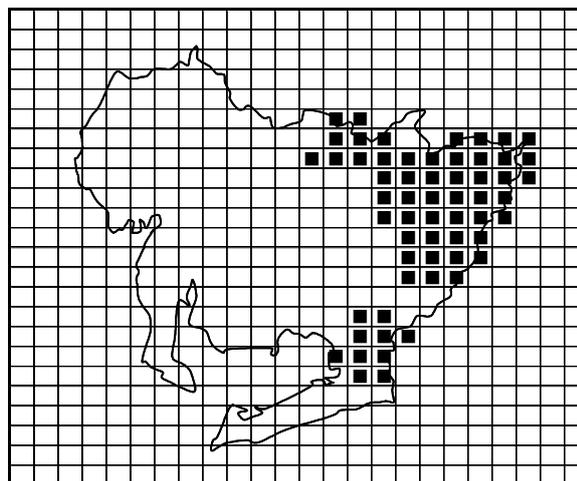
【国内の分布】

本州 (神奈川県以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地はそれほど多くないが、その場所では通常群生する。一部の生育地では周辺でシカの食害が顕在化しており、今後衰退する可能性がある。

【保全上の留意点】

個体レベルの保全に限れば現状ではそれほど神経質にならなくてもよいが、どこにでもある植物というわけではないので、生育地の保全には配慮する必要がある。

【特記事項】

和名は、花冠が手招きしているような形だからと言われている。ヤマキセワタとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本 I p.190, 平草本 III p.74, 平新版 5 p.125.

ミゾコウジュ *Salvia plebeia* R.Br.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 9。愛知県では生育地も個体数も多く、さしあたり絶滅が危惧される状況ではない。

【形態】

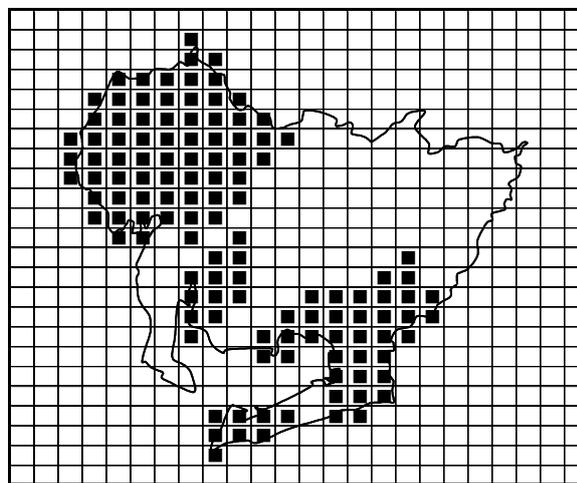
越年生草本。冬にはロゼット状の根出葉がある。茎は直立し、断面は四角形、上部で分枝し、高さ 30～70cm、下向きの細毛がある。根出葉は長楕円形で長い柄があり、花時には枯れる。茎葉は対生し、短い柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ 3～6cm、幅 1～2cm、辺縁には細かい鈍鋸歯がある。花期は 5～6 月、花穂は茎や枝の先端につき、はじめ短い、後に 8～10cm に伸びる。がくは長さ 2.5～3mm、花後に口を閉じ、果時には長さ約 4mm となる。花冠は淡紫色で、長さ約 5mm である。分果は広楕円形、長さ約 0.8mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城 (中西普佐子 4041, 2016-5-12)、13 豊川 (小林 37120, 1992-5-15)、14 蒲郡 (井上美保子 240, 1992-5-22)、15 豊橋北部 (芹沢 72929, 1996-6-8)、16 豊橋南部 (中西普佐子 4052, 2016-6-18)、18 田原西部 (小林 51572, 1994-5-21)。西：33 安城 (堀田喜久 22217, 2017-6-16)、34b 碧南 (芹沢 92324, 2017-6-3)。尾：37a 瀬戸 (村松正雄 23120, 2006-6-9)、38b 日進 (半田多美子 1077, 1993-6-1)、45 犬山 (芹沢 88407, 2013-5-26)、46a 扶桑 (竹下希望 465, 2010-6-12)、47 小牧 (日比野修 4853, 1999-6-23)、49a 岩倉 (芹沢 72934, 1996-6-17)、49d 清須 (鈴木幸子 721, 1995-5-23)、50 名古屋北部 (鈴木秀樹 2423, 1996-6-3)、51 名古屋南東部 (渡辺幸子 6529, 2013-5-14)、52 名古屋南西部 (芹沢 80574, 2006-6-4)、53 一宮東部 (塚本威彦 2611, 1998-5-10)、54 一宮西部 (渡辺幸子 264, 1992-5-19)、55 稲沢 (渡辺幸子 6214, 2011-5-31)、56a あま (鈴木秀樹 2298, 1996-5-30)、57b 愛西 (芹沢 74585, 1998-5-22)。58b 弥富 (三岡裕介 s.n., 2003-6-13) にもあったが、土砂と共に移入された可能性がある。8 鳳来北東部 (長篠, 小林 18789, 1978-5-25)、9 鳳来南部 (黄柳野, 加藤等次 s.n., 1957-5-26) で採集された標本もある。三河山地にはなく、西三河でも少ない。また知多半島でも現在のところ確認されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジア、マレーシア、インド、オーストラリア。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの、多少攪乱された場所に生育する。平野部の休耕田や空き地などに生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地		○	○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

低湿地性の植物であるが、その中では攪乱地に多く生育している。大きい群落は作らないが、あちこちに点在しており、他の低湿地性植物に比べれば絶滅が危惧される程度は低い。しかしそれでも、都市近郊の一部の区画では、見かける機会が減少している。

【保全上の留意点】

個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないが、「本種すらなくなったら、低湿地性植物は全滅」という意味で、注目してよい植物である。

【関連文献】

保草本 I p.167, 平草本 III p.80, 平新版 5 p.139, SOS 旧版 p.78.

オオヒキヨモギ *Siphonostegia laeta* S.Moore

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 9。愛知県では生育地が多く、個体数もそれなりにあり、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

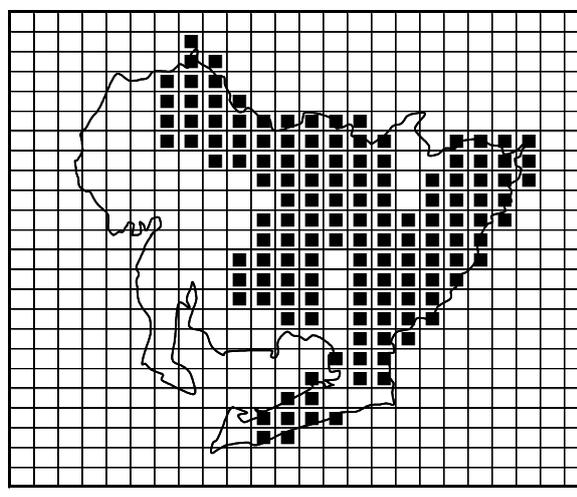
半寄生の1年生草本。茎は斜上し、よく分枝し、高さ30~70cm、葉とともに開出した腺毛が密生する。葉は茎の下部では対生、上部ではややずれて互生し、長さ0.5~2.5cmでくさび形の翼がある柄があり、葉身は卵形、長さ1.5~4cm、幅1.2~3cm、羽状に深裂し、裂片は比較的大きくて幅が広い。花期は8~9月、花は上部の葉腋に1個ずつつき、がくは細い筒形で開出した腺毛が密生し、長さ2~2.2cm、先端は5裂し、裂片は狭披針形で長さ5~7mmである。花冠は黄白色、長さ2.5~3cm、唇形、上唇は先が狭まらず切形で、2裂しない。果実は蒴果で、長さ約13mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山(小林 60090, 1996-9-14)、2 豊根(小林 60076, 1996-9-14)、3 東栄(小林 39487, 1992-9-19)、7 設楽東部(芹沢 63107, 1992-9-4)、8 鳳来北東部(加藤等次 1711, 1992-8-15)、11 作手(小林 53266, 1994-8-19)、12 新城(芹沢 60148, 1991-8-29)、15 豊橋北部(芹沢 66850, 1993-8-6)、17 田原東部(小林 73089, 2001-8-5)。西：19 旭(日比野修 1705, 1993-8-28)、20 足助(芹沢 70262, 1994-8-3)、21 下山(芹沢 63751, 1992-9-24)、22 小原(日比野修 2429, 1994-7-29)、23 藤岡(日比野修 3690, 1996-8-8)、24 豊田東部(畑佐武司 2312, 2001-8-13)、25 豊田北西部(畑佐武司 578, 1999-8-14)、29 岡崎北部(芹沢 86321, 2010-9-29)、30 岡崎南部(芹沢 70187, 1994-8-1)。尾：37a 瀬戸(芹沢 82047, 2012-9-10)、45 犬山(芹沢 87849, 2012-9-10)、48 春日井(村瀬正成 15369, 1997-8-23)。主として低山地に生育しており、深山にも丘陵地にも少ない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州(関東地方~中国地方)および四国(瀬戸内側)に生育する。

【世界の分布】

日本および中国大陸中南部に分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

低山地の林縁に多い。しばしば林道わきの崖状地などに生育している。「低地のやや乾いた草地に生える」と書かれている文献もあるが、ヒキヨモギ(655頁)と異なり、通常そのような場所に生育することはない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

群生することはないが、あちこちに点在している。近年特に減少しているということもないが、よく茂った森林の中では生育できないため、森林化の進行が懸念材料である。本種のような、どうも言うことのない場所に生育しているがそれでいて雑草的でない植物は、将来的にはアキノハハコグサのように、希少な植物になってしまう可能性もある。

【保全上の留意点】

本種が生育しているような林縁部も、生物多様性を保全する上ではそれなりに重要である。森林や湿地のような自然度の高い場所だけでなく、軽度に攪乱された環境も保全する必要があることは、よく認識する必要がある。

【特記事項】

ヒキヨモギからは、茎が直立せず、葉の切れ込みが浅く、花が鮮黄色でないことで区別できる。

【関連文献】

保草本 I p.136, 平草本III p.114, 平新版 5 p.162, 環境省 p.502, SOS 旧版 p.81.

イヌタヌキモ *Utricularia australis* R.Br.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 9。全国的には減少傾向の著しい水草であるが、愛知県では生育地も個体数も多く、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

水中に浮遊する食虫性の多年生草本。茎は長さ 1m に達するが、細く、切れやすい。葉は互生し、長さ 1.5～4.5cm、基部で 2 本の枝に分かれ、更に何回か二叉状に分枝し、通常多数の捕虫囊をつけるが、ほとんどつけないこともある。花期は 7～9 月、花茎は長さ 10～30cm で、水面から出て直立し、しばしば茎より太く、中実、先端に数個の花をつけ、花柄は長さ 0.5～3cm で、花後下向きに曲がる。花弁は黄色で、直径 1.2～1.5cm、距は下唇より短い。殖芽は夏～秋に茎や側枝の先端につき、長楕円形、長さ 4～10mm、暗褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具 (小林 57897, 1995-8-20)、8 鳳来北東部 (芹沢 82168, 2007-9-2)、12 新城 (芹沢 78174, 2002-10-2)、13 豊川 (小林 38811, 1992-8-17)、16 豊橋南部 (芹沢 53563, 1989-9-25)。西：20 足助 (塚本威彦 2737, 1998-10-20)、21 下山 (芹沢 83071, 2008-8-26)、23 藤岡 (芹沢 78042, 2002-9-4)、24 豊田東部 (畑佐武司 4353, 2002-7-3)、27 みよし (芹沢 53096, 1989-9-7)、28 額田 (小林 65013, 1998-8-29)、29 岡崎北部 (杉田一記 1572, 2010-10-7)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 84821, 2009-9-9)、37b 尾張旭 (鈴木 淳 515, 1993-10-12)、38a 長久手 (半田多美子 3762, 2005-10-20)、39b 豊明 (芹沢 57784, 1990-10-17)、42a 阿久比 (渡邊麻子 996, 1995-10-14)、42c 武豊 (芹沢 53325, 1989-9-14)、43 常滑 (中井三従美 8, 1994-7-27)、44a 美浜 (中井三従美 27, 1989-2-5)、45 犬山 (芹沢 92818, 2017-8-9)、48 春日井 (鈴木 淳 230, 1993-8-12)、50 名古屋北部 (芹沢 88048, 2012-10-8)、51 名古屋南東部 (芹沢 88607, 2013-7-20)。2 豊根 (宇連, 加藤等次 1659, 1968-10-15)、15 豊橋北部 (葦毛, 鳥居喜一 21636, 1949-9-1, HNSM)、17 田原東部 (野田村, 鳥居喜一 21634, 1949-10-2, HNSM)、18 田原西部 (福江町小中山, 鳥居喜一 21635, 1949-8-14, HNSM)、56a あま (美和村蜂須賀, 木全 3, 1932-7-29) で採集された標本もある。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

ユーラシア、アフリカ、オーストラリアに広く分布する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○	○		

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や水田に生育する。湧水湿地下部の水路に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では尾張部の丘陵地のため池に比較的多く見られ、小さい池では、時に池一面に生育していることもある。しかし、この地域は開発圧も高く、また水質の汚濁により消滅する危険性も高い。近い将来県内で絶滅するとは考えにくい、減少傾向にあることは明らかである。谷戸田に生育しているものは、量的にはどの場所もそれほど多くなく、また耕作放棄により消滅する可能性がある。

【保全上の留意点】

現状では、個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないと思われる。しかし、本種が生育できるようなため池は次第に減少しており、生物多様性全般の保全という意味でも、生育地の保全は重要なことである。

【特記事項】

イヌタヌキモとオオタヌキモ *U. macrorhiza* Leconte の雑種とされるタヌキモ *U. × japonica* Makino も、愛知県に生育している可能性がある。しかし愛知県産の既存の標本は、角野氏に見てもらったところ、すべてイヌタヌキモとのことであった。

【引用文献】

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.148. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

保草本 I p.121, 平草本 III p.138, 平新版 5 p.166.

ヒダアザミ *Cirsium tashiroi* Kitam. subsp. *hidaense* (Kitam.)

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 10。分布域の狭い準固有種であるが、県内では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 30～80cm になる。葉は茎の基部に集まり、根出葉は花時にも残存し、長さ 15～30cm、切れ込まないものから羽状に全裂するものまであり、先端は鋭頭、切れ込まないものでは葉身は卵形～楕円形、基部は広くさび形～浅い心形で長い柄があるが、切れ込むものでは葉身は長楕円形、柄は短い。花期は 9～10 月、頭花は少数で、長い柄の先に下向きにつき、総苞は長さ 15～17mm、幅 1cm 程度、総苞片は 6 列で先端は開出し、刺針となる。花冠は紅紫色で、長さ 18～20mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 48063, 1993-9-19)、2 豊根 (小林 39833, 39834*, 1992-10-4)、4 津具 (芹沢 90548, 2015-9-5; 芹沢 91517*, 2016-9-11)、8 鳳来北東部 (小林 62256, 1997-9-13)、12 新城 (小林 40107*, 1992-10-24)。
西：5 稲武 (芹沢 85177*, 2009-10-10; 芹沢 91508, 2016-9-11)、19 旭 (芹沢 90783, 2015-10-10)、22 小原 (伊藤泰輔 106, 1992-9-27; 伊藤泰輔 122*, 1992-10-10)、23 藤岡 (日比野修 920, 1992-10-4)。*は葉に切れ込みがない型である。標本は作成しなかったが 6 設楽西部でも見ており、また 3 東栄にもあるという (小林 2006)。県内の分布は三河山地に限られており、丘陵地では見られない。44b 南知多のものはシノジマアザミとして区別し、183 頁に掲載した。

【国内の分布】

本州 (静岡県西部～岐阜県) に分布する。基準亜種のワタムキアザミ subsp. *tashiroi* は、鈴鹿山脈とその周辺に生育している。

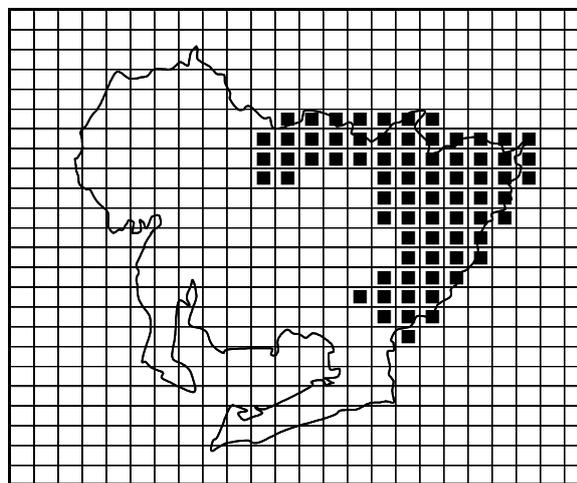
【世界の分布】

日本固有亜種。種としても日本固有である。

【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。沢沿いに多いが、尾根近くに見られることもある。自然林内にも生育しているが、どちらかといえば軽度の攪乱を受けた場所に多い。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

三河山地には点在している。しかし、ニホンジカによる食害を受けて減少しており、このままでは近い将来、準絶滅危惧種に移行する可能性がある。

【保全上の留意点】

現在はまだ多いが、分布域が比較的狭い植物であるから、それなりに配慮を要する。特にある程度自然度の高い場所に生育している場合は、注意して生育地を保全する必要がある。

【特記事項】

2009 年版では、ワタムキアザミの名で掲載した。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.205. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 I p.33, 平草本III p.215, 平新版 5 p.232, 環境省 p.526.

ウラギク *Tripolium pannonicum* (Jacq.) Schur

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 10。塩湿地性の植物であるが、愛知県では生育地も個体数も多く、またやや攪乱された場所にも生育しており、さしあたり絶滅が危惧されるほどの状態ではない。

【形態】

越年生草本。茎は直立して上方で分枝し、高さ 40～80cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は披針形、長さ 6.5～15cm、幅 0.6～1.5cm、先端は鋭頭、基部はやや茎を抱き、無毛で肉質である。花期は 8～11 月、茎の上部に、多数の頭花を散房状につける。頭花は直径 2.5～3cm、総苞は筒状で長さ約 7mm、総苞片は 3 列にならび、外片は披針形で長さ 2.5～3mm、鈍頭、辺縁に短い毛があり、内片は円頭で紫色をおびる。舌状花の花冠は淡青紫色で、舌部は長さ 7～10mm である。そう果は狭長楕円形、長さ 2.5～3mm、扁平で有毛、冠毛は花時には長さ 5mm 程度であるが、果時には 14～16mm に伸びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (小林 65483, 1998-11-15)、14 蒲郡 (小林 58662, 1995-11-3)、16 豊橋南部 (芹沢 90801, 2015-10-12)、17 田原東部 (芹沢 78356, 2002-10-24)、18 田原西部 (芹沢 78359, 2002-10-24)。西：32a 刈谷 (芹沢 71360, 1994-10-25)、34a 高浜 (芹沢 71363, 1994-10-25)、34b 碧南 (中村 さとこ 1108, 1993-10-19)、35 西尾北部 (中根幸司 1900, 2007-10-20)、36 西尾南部 (中根幸司 1927, 2007-10-20)。尾：40b 東浦 (中村裕治 1286, 1994-10-14)、41a 東海 (清水政美 s.n., 1999-11-9)、42b 半田 (浅野守彦 2116, 2007-11-10)、52 名古屋南西部 (芹沢 83580, 2008-10-12)、58b 弥富 (畑佐武司 1528, 2000-10-10)。51 名古屋南東部 (加福町, 高木順夫 5628, 1997-11-1) にもあったが絶滅した。

【国内の分布】

北海道東部、本州 (関東地方以西の太平洋側)、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

アジア、ヨーロッパ、アフリカ北部に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

内湾の塩湿地や河口部の河川敷などに生育するほか、埋立地の水路などに生育していることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

ある場所では群生していることが多く、花時には美しい。現在のところ三河湾側ではまだかなり多いが、海岸部の開発により、減少傾向にあることは確かである。伊勢湾側ではあまり多くない。名古屋南東部では、生育地が廃棄物最終処分場となり絶滅した。名古屋南西部では庄内川河口部に生育しているが、攪乱が少なくなってヨシが著しく繁茂し、衰退している。2019 年秋に左岸側を調査した人の話では、くまなく探したわけではないけれども、数個体しか確認できなかったという。

【保全上の留意点】

愛知県では当面絶滅が危惧される状態ではないが、全国的には減少傾向が著しい。愛知県においても、本種の生育地である内湾部や河口部は開発圧力が極めて高く、注意して自然環境を保全する必要がある。本種についても、ある程度自然度の高い場所に安定した状態で生育している場合は、保全対策を講じるべきである。塩湿地性植物は全体的に目立たないものが多いが、その中で本種はハマボウと共に花が美しく、象徴としての意味も大きい。「本種すらなくなったら塩湿地性植物は全滅」という意味でも、注目してよい植物である。

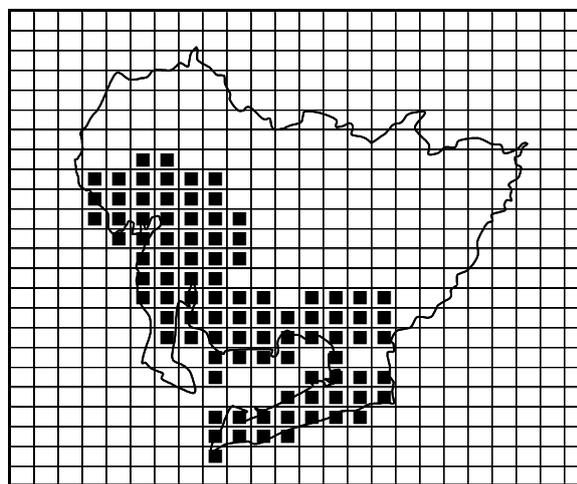
【特記事項】

ハマシオンとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本 I p.80, 平草本III p.194, 平新版 5 p.326, SOS 新版 p.154,156.

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

希少偶産種

今回のレッドデータブックで希少偶産種として評価の対象から除外した種としては、682 頁に掲載したハマナツメの他に、以下の 5 種がある。

ハチジョウシダモドキ *Pteris oshimensis* Hieron. (シダ植物 イノモトソウ科)

東：15 豊橋北部 (嵩山町, 小林 66907, 1999-8-15)。標本は葉柄長 10cm、葉身長 7.5cm ほどの幼株で、本種でよいと思われるが、もちろん孢子のう群はつけていない。現地には 1 株しかなかったという。

メヤブソテツ *Cyrtomium caryotideum* (Wall. ex Hook. et Grev.) C.Presl (シダ植物 オシダ科)

東：8 鳳来北東部 (豊岡湯谷川, 小林 63026, 1997-12-28)。標本は葉柄長 14cm、葉身 2cm 程度の幼株で、孢子のう群はつけていない。側溝の中に 1 株だけ生育していたという。

クロアブラガヤ *Scirpus sylvaticus* L. var. *maximowiczii* Regel (被子植物Ⅱ群 カヤツリグサ科)

尾：45 犬山 (栗栖桃太郎公園, 瀧崎吉伸 26550, 2010-5-8)。木曾川の水辺に 1 株だけ生育していたもので、上流から流されてきて一時的に漂着した個体と思われる。標本は茎長 60cm ほどで花もつけていたが、次に行ったときには見当たらなかった。

クジラグサ *Descurainia sophia* (L.) Webb ex Prantl (被子植物Ⅲ群 アブラナ科)

尾：37a 瀬戸 (余床町, 塚本威彦 2861, 2000-5-25)。もともと出現が不安定な植物で、帰化植物扱いされることも多い。愛知県のものも帰化植物かもしれない。瀬戸市では採土場跡地に生育していたとのことで、上記標本は茎長 120cm に達するよく発育した個体だが、翌年採られた標本は貧弱な個体である。現地ではその後工場が建設され、消失したという。

タカアザミ *Cirsium pendulum* Fisch. (被子植物Ⅲ群 キク科)

標本はシロバナタカアザミの項 (356 頁) に引用。3 カ所で採集されているが、いずれも土木工事跡地に 1 株だけ生育していたもので、次に行ったときには消失していた。

